

# 福山平成大学の教育情報

【1】大学の教育研究上の目的 <各学科、研究科、専攻別>	1
【2】教育研究上の基本組織 <基本組織><学生数><教育組織の運営>	4
【3】教員数	7
【4】入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況 <受入方針><就職及び進学の状況（就職指導体制、就職状況、就職先、各種の資格）>	9
【5】授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画	18
【6】学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準	31
【7】校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関するこ	32
【8】授業料、入学料等（初年度分）	36
【9】大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援	37
【10】沿革	40
【11】上記以外の情報（産学官連携、社会貢献活動、大学間連携）	42

## 福山平成大学の教育情報

### 【1】大学の教育研究上の目的

本学は広島県東部に位置し福山市など近隣市町村等の協力を得て「公私協力方式」により設立された大学である。このため、本学は福山市を中心とした備後地域の発展に貢献する人材育成を第一の目的としている。

また、多種多様・多岐にわたる社会からの要請に対応し、本学の教育理念として、“建学の精神”や“大学の基本理念”は、“全人教育”、“心情と愛の教育”、“人間と自然を尊ぶ教育”及び“知行合一の教育”的4つに定められており、各学部各学科の教育方針に色濃く反映されている。

#### ① 経営学部・経営学科

経営学部・経営学科は、“建学の精神”及び本学学則に定めるところに基づき、社会性を身につけた豊かで調和のある人間性を養い、経営学諸分野の高度な専門的知識と技術を習得し、産業経済界で活動できる実践的な人材を育成するとともに、これに関連する教育研究を行うことを目的とする。

現代の会社経営においては情報がこれまでとは比べものにならないほど重要な位置をしめるようになってきている。経営学科では“建学の精神”である全人格陶冶とともに、必要な経営学関係の専門知識だけではなく、経営における的確な状況判断能力や意思決定能力を身につけ、地域社会の発展に貢献できる即戦力としての“職業人”及び“産業人”を育成することを目標に、実学重視の教育を行っている。

#### ② 福祉健康学部・福祉学科

福祉健康学部は、“建学の精神”及び学則の定めるところに基づき、社会性を身につけた豊かで調和のある人間性を養い、福祉及び健康に関する高度な専門知識と技術を習得し、すべての人々の健康増進及び社会福祉に貢献することができる人材を育成するとともに、これに関連する教育研究を行うこととしている。

福祉学科は、“ウェルビーイング (well-being)”の理念に基づき、社会福祉、精神保健福祉及び介護福祉に関する専門的知識と技術を習得し、児童・生徒・学生、高齢者、障害者等、すべての人々の福祉の向上に寄与しうる豊かな人間性と総合的実践力を備えた人材を育成することを目的とする。

また、福祉ニーズの多様化及び複雑化に対する一助として、健康スポーツ科学科の専門教育科目から、健康管理の方法や健康心理のメカニズム、そしてレクリエーション活動や生涯スポーツの意義を学ぶことができるよう工夫している。また、ニーズに応えて医療事務資格の取得を目指し、経営学科の専門教育科目を履修できるようにも工夫している。人間がこの世に生を受け死に至る過程において欠くことのできない身体活動や心のメカニズムについて学ぶことを要求し、福祉の専門家として、福祉に関する“制度”とそこに“生きる人間”という複眼的で温かい視野を持つ人材養成にも積極的に取り組んでいる（“心情と愛の教育”）。

#### ③ 福祉健康学部・こども学科

こども学科は、“建学の精神”及び学則の定めるところに基づき、乳児から児童までの子どもに対して一

貫して支援・教育を行える保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を養成することを目的としている。

教育課程は、保育士資格及び幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状を取得できるように構成されている。理論と実践の両面から学びを深めるため、1年次から体験学習を行い、2年次の保育実習、3年次の幼稚園教育実習及び小学校教育実習、4年次における二度目の保育実習から総仕上げとしての教育実践演習へと段階的な学びを設定して無理なく実践力を高めるとともに、4年間を通して大学で学ぶ新しい理論・技術が実践の場でどのように活かされるかを体得できるように工夫されている。また、子どもの表現領域（体育、図画工作及び音楽）教育にも力点を置いており、特にピアノ教育においては、入学前から始まり、4年間を通してピアノ教育を行っている。

#### ④ 福祉健康学部・健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、“建学の精神”及び学則の定めるところに基づき、身体活動を介した健康やスポーツを体系的に深く理解するとともに、健康、スポーツ、教育に関する専門知識と技術を習得し、すべての人々の健康増進及びスポーツ振興の担い手として寄与しうる豊かな人間性と総合的実践力を備えた人材を育成することを目的としている。

このため、教育課程は、スポーツに関する医科学系、健康科学系、心理学系、社会学系、教育学系、コーチング系などの分野の知識を系統的に広く学習する。また、学んだ知識の定着及び実践による確認の意味を含め、スポーツ実技や演習の教科を数多く開講し充実させている。開設当初は、中・高齢者を対象に健康の維持・増進を目的とする学科であったが、平成17（2005）年には中学校・高等学校教諭（保健体育）の教員免許が、また平成19（2007）年には養護教諭の教員免許が取得できるようになり、これに伴って、従来の教育カリキュラムに加え、教育実践指導力の拡充のための実技や実習、さらには演習形式による授業の強化がはかられた。そして、平成21（2009）年には、学科に所属する教員で構成される大学院スポーツ健康科学研究科が設置されることとなり、学科の教育課程を引き継ぎ、継続して高度な職業人を育成することが可能となっている。

#### ⑤ 看護学部・看護学科

看護学部看護学科は、“建学の精神”及び学則の定めるところに基づき、生命の尊重を基本理念とし、豊かな人間性と倫理観に裏付けられた感性を持ち、保健、医療及び看護に関する高度な専門的知識と技術を習得し、すべての人々の健康増進及び社会福祉に貢献することができる人材を育成するとともに、これに関連する教育研究を行うことを目的とする。

このため、教育課程は、看護師や保健師免許を取得することを目標に構成され、教育内容と効果的な教育方法を精選して進めている。看護学を“人がよりよく生きる”ために、また“あらゆる健康レベルに対して援助する”ために“人間”、“健康”、“環境”及び“看護活動”を主軸に据え、また看護実践者、指導者、教育者または研究者を育成するために“人間と健康論”、“生活と環境論”、“看護活動論”及び“統合（総合）”領域の4本柱を相互に連動できるように構成している。

#### ⑥助产学専攻科

助产学専攻科は、女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアが提供できる高度な専門知識と実践力を養い、女性の生涯を通じた健康支援ができる人材を養成する。また、豊かな人間性と倫理観に裏

付けられた感性と思いやりの心をもつ助産師を養成する。

大学院は、学術の理論及び応用を教授し、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的として3つの研究科を設置している。

#### ⑦ 大学院・経営学研究科

経営学研究科は、経営学分野の専門知識と先端的情報技術分野の専門知識を統合した高度な能力を身に付けた専門的職業人を育成するとともに、これに関する研究を行うことを目的とする。

経営学研究科は、経営情報学専攻のみで構成されており、経営学部経営学科の教育課程に連結された専攻となっている。授業科目は“経営学分野”、“情報学分野”、“経営情報学分野”及び“経営情報学演習”の4分野により構成され、より高度な知識を習得できるように学問体系に沿ってグループを分け配置している。また学部教育の時代から高度な理論と知識が積み上げられるよう、経営学科と一貫した教育課程の教育方針と教育方法によって教育を行っている。

#### ⑧ 大学院・スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学研究科は、ヒトの健康・体力に関する科学をベースに、競技力向上にも及ぶ医学的、生理的、心理的、教育的メカニズムや反応などを追求する。子どもから高齢者の健康と体力づくりや限りある競技生活の中でいかに競技力を向上させることができるかを念頭においていた教育・研究を行い、将来の研究者、教育者およびスポーツ指導者を養成する。

また、体育科教育学、養護教育学を通じて、実効性のあるカリキュラム開発を可能とするような保健体育および養護教育の専門的指導者を養成する。

#### ⑨ 大学院・看護学研究科

看護学研究科は、少子超高齢社会における看護専門職としての社会的責任を果たすため、医療の場を含む生活の場で必要とされる人々のQOL向上を目指し、生活者の視点で健康社会を支える人材を養成する。人間の尊厳とアドボカシー(advocacy)の志向に根ざし、看護活動の広範化・多様化に応じて、高いレベルの実践能力と倫理観を備え、根拠に基づいた看護を展開しつつ、研究成果を看護現場に還元することを目指す。また、看護専門職の育成に関する諸問題を考察できる研究的な視点を持った看護管理者、看護教育者、実践者を養成する。

## 【2】教育研究上の基本組織

本学の教育研究組織は福山平成大学組織図（図 2.1）に示すように、経営学部、福祉健康学部、看護学部の3つの学部、3つの研究科及び1つの専攻科で構成されている。また、附属図書館、情報教育研究センター、留学生支援室及び事務局の教育研究支援組織がある。

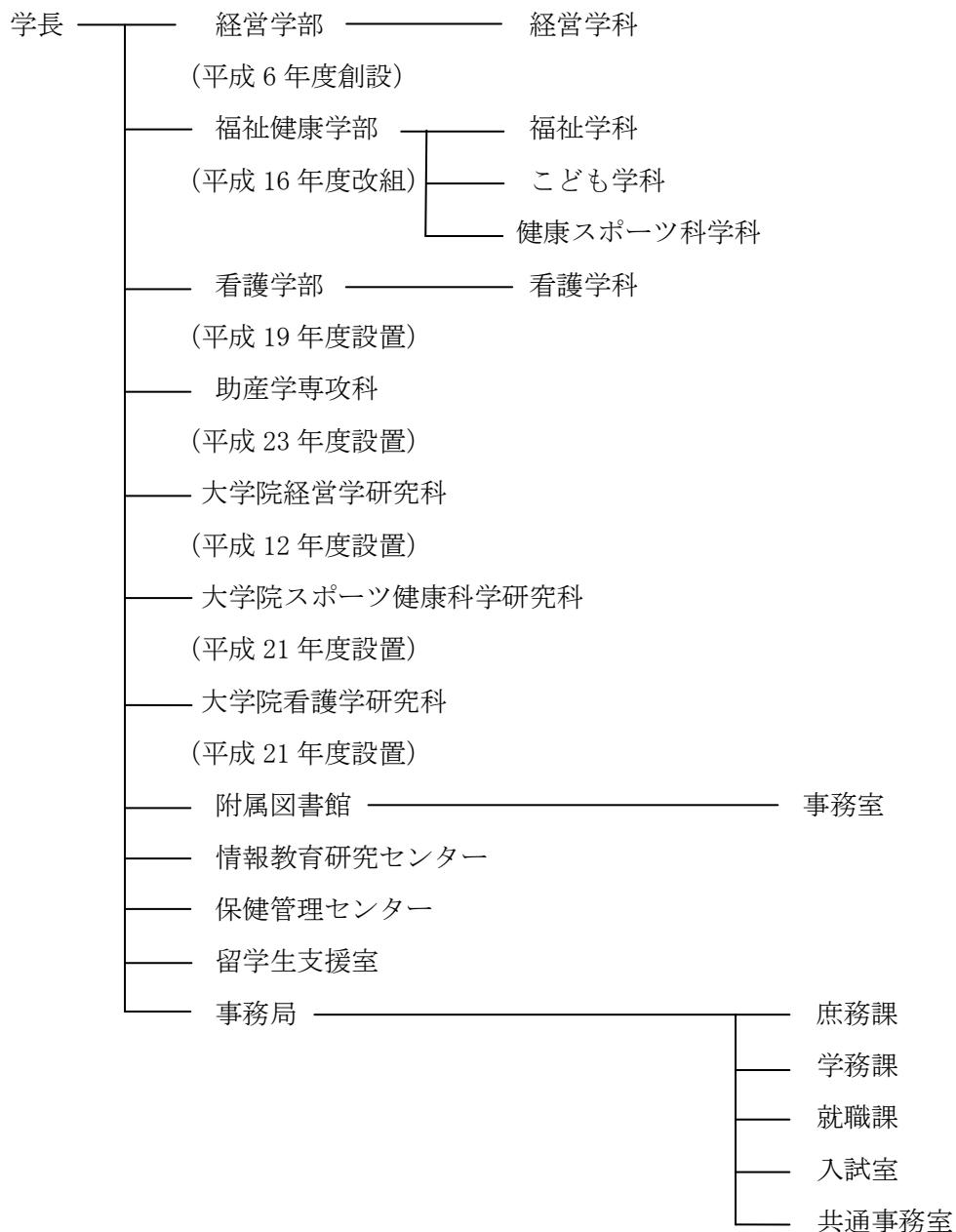


図 2.1 福山平成大学組織図

## 《学生数》

平成 27 年 4 月 1 日現在の福山平成大学の全学生数は、表 2.1 のとおり 1,245 人（学部生 1,223 人、院生 12 人、専攻生 10 人）である。

表 2.1 学生定員及び在籍学生数（平成 27 年 5 月 1 日現在）

（単：人）

学 部	学 科	入学 定員	収容 定員	学生数(留学生内数)					教 員 1人当り 学生数	収容定員 充足率	
				入学 者数	在籍 総数	1 年次	2 年次	3 年次			
経営	経営	50	200	30(3)	122(13)	31(3)	35(2)	26(3)	30(5)	7.6	61.0%
福祉健康	福祉	60	240	24	116	24	39	28	25	8.9	48.3%
	こども	50	200	43	197	43	57	52	45	16.4	98.5%
	健康スポーツ科	100	400	110	405	113	93	102	97	28.9	101.3%
小計 [学部平均]		210	840	177	718	180	189	182	167	18.4	85.5%
看護	看護	80	320	97	383	97	96	101	89	13.7	119.7%
合計 [全平均]		340	1,360	304(3)	1223(13)	308(3)	320(2)	309(3)	286(5)	14.7	89.9%

（年度別学科別入学状況）

学 部	学 科	H24 入学者	H 25 入学者	H 26 入学者	H 27 入学者
経営	経営	33	32	36	30
福祉健康	福祉	25	26	41	24
	こども	50	54	57	43
	健康スポーツ科	104	106	96	110
看護	看護	104	102	91	97
合 計		316	320	321	304

大学院・研究科	課程	入学 定員	収容 定員	入学 者数	在籍 生数	1 年次	2 年次	H24 入学者	H 25 入学者	H 26 入学者	H 27 入学者
経営学	修士	5	10	1(1)	2(1)	1(1)	1	2	2	1	1
スポーツ健康科学	〃	5	10	2	3	2	1	4	3	1	2
看護学	〃	5	10	3	7	3	4	6	6	4	3
合 計		15	30	6(1)	12(1)	6(1)	6	12	11	6	6

（注）経営学研究科の「( )」は留学生でうち数

専攻科	課程	入学 定員	在籍 生数	H24 入学者	H 25 入学者	H 26 入学者	H 27 入学者
助产学	1 年	10	10	5	9	7	10

（注）全学生に占める女子学生比率は、50.2% である

## 《教育組織の運営》

本学は、学校法人福山大学の傘下で、教育研究の目的に沿って、それぞれの組織が相互に連携しながら図2.2のとおり運営されている。

大学全体の教育研究に関わる重要な問題については、評議会や部局長会において決定された基本方針に基づき、学部教授会、研究科委員会及び各種委員会において、その具体的な対応についての審議が行われ、学部長等連絡会議で議題として整理され、全学教授会の審議に付される、という流れになっている。また、教育研究に関する具体的な取組みは、教務委員会、学生委員会、入試委員会、就職委員会及び広報委員会等の委員会で十分検討され、各学科単位で組織されている学科会議において協議され、教員間での意思疎通が図られる体制となっている。

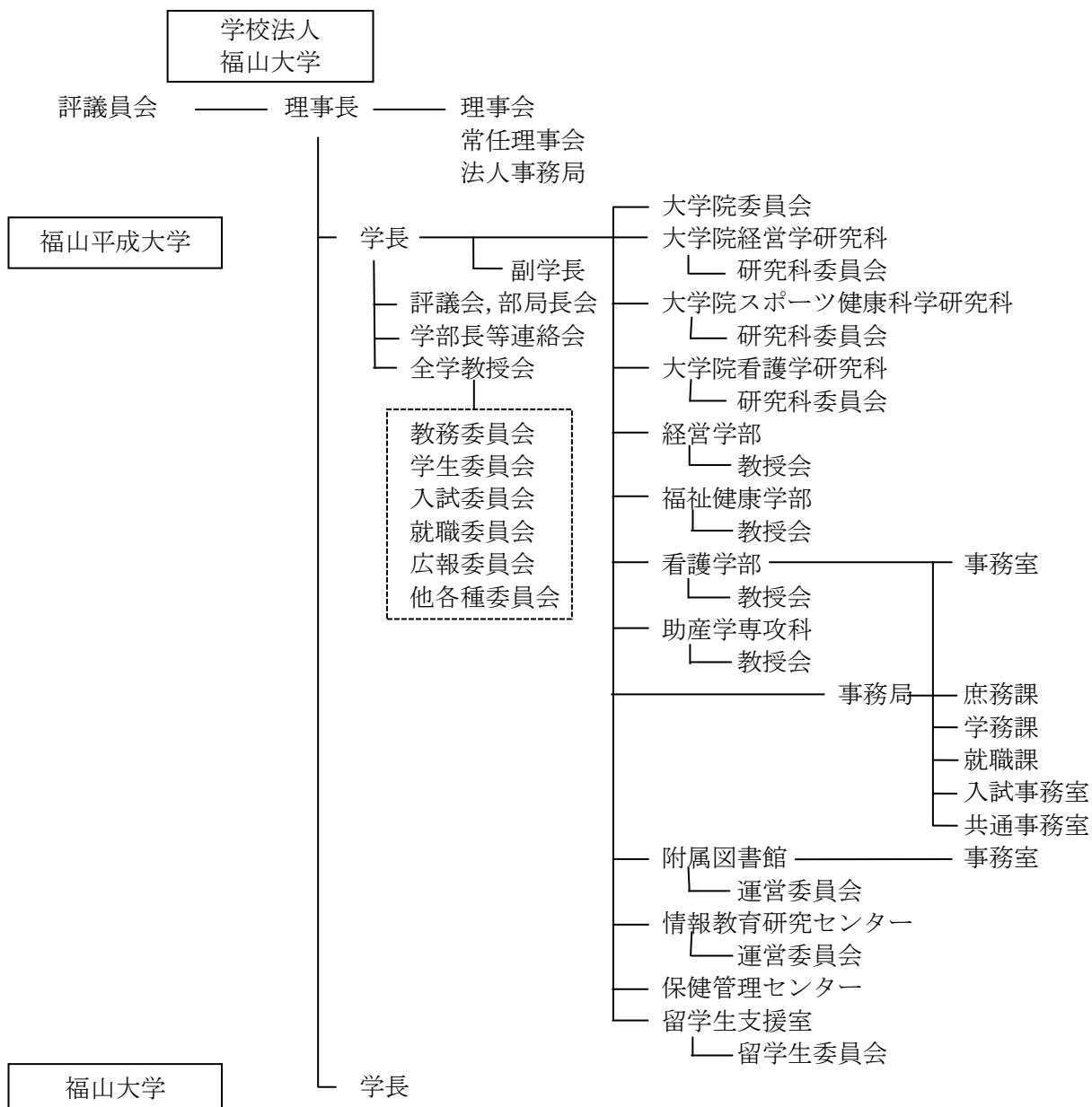


図2.2 福山平成大学運営組織図

### 【3】教員数

専任教員 84 人(授業担当は学長を除く 83 人)及び非常勤講師 95 人で授業(講義・演習・実習)を担当している。

表3.1 平成27年5月1日現在の教員数

(単位:人)

学 科 名	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	専任 計	非常勤 [客員] (特任)	備 考
学 長	1	-	-	-	-	1	-	〈〉の数字は、 大学院担当 で内数
経営学科	10 〈3〉 ①	0	4 〈2〉 ①	1	1 ①	16 〈5〉 ③	19 ③	○の数字は、 女性教員で 内数
福祉学科	6 ①	4 ①	2 ①	0	1 ①	13 ④	5 ②	〔 〕, ( )の数 字は外数
こども学科	5 〈2〉 ④	5 ①	2	0	0	12 〈2〉 ⑤	13 ⑦ (1)	
健康スポーツ科学科	6 〈3〉	1 〈1〉 ①	7 〈1〉 ①	0	0	14 〈5〉 ②	15 ⑨ (1)	
看護学科	6 〈6〉 ⑤	3 〈2〉 ③	9 〈3〉 ⑧	5 ④	5 ⑤	28 〈11〉 ㉕	16 ⑨ (1)	
助産学専攻	-	-	-	-	-	-	5 ③	
一般教養科目	-	-	-	-	-	-	13 ④	
計	34 〈14〉 ⑪	13 〈3〉 ⑥	24 〈6〉 ⑪	6 ④	7 ⑥	84 〈23〉 ㉙	86 ㉗ (3) 170 〈23〉 ㉖ (3)	

(注)専任教員と非常勤教員の比率は、49.4%である。

(専任教員年齢別教員数)

学科	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上	合計	備考
経営学科	0	3	3	2	4	1	2	15	
福祉学科	0	1	3	4	1	3	0	12	
こども学科	0	5	2	1	0	3	1	12	
健康スポーツ科学科	1	4	6	0	1	1	1	14	
看護学科	0	2	8	8	4	1	0	23	
計	1	15	22	15	10	9	4	76	

表3.2 教員の一覧(各教員の研究業績は、本学ホームページ(研究者一覧)をご検索ください。)

<p>〔 〕学位 ①専門分野 ②担当科目</p> <p>学長 田口 則良 [文学博士]</p>	<p>向井 通郎 [博士(社会福祉学)]</p> <p>①社会福祉 ②障害者福祉論</p>	<p>福祉健康学部</p> <p>健康スポーツ科学科</p> <p>学科長 石橋 勇 [修士(社会学)]</p> <p>教 授 ①コンディショニング科学 ②臨床スポーツ医学</p> <p>房前 浩二 [学士(教育学)]</p> <p>①保健体育科教育学 ②保健体育教員教育実践演習</p>	<p>若井 和子 [博士(医療福祉学)]</p> <p>①母性看護学 ②母性と生命科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p>
<p><b>経営学部</b></p> <p>経営学科</p>	<p>学部長 坪井 始 [工学博士]</p> <p>教 授 ①情報システム ②情報システム</p> <p>学科長 村社 隆 [経済学士]</p> <p>教 授 ①中小企業産業集積 ②現代企業論</p> <p>小篠 敏明 [修士(教育学)]</p> <p>①英語 ②英語</p> <p>田中 三樹 [商学修士]</p> <p>①経営史 ②経営史</p> <p>川久保 和雄 [工学修士]</p> <p>①情報システム ②コンピュータ入門</p> <p>福井 正康 [工学博士]</p> <p>①社会システム分析 ②統計</p> <p>小玉 一樹 [修士(マネジメント)]</p> <p>①人的資源管理論 ②経営組織論</p> <p>市瀬 信子 [文学修士]</p> <p>①中国文学 ②中国語</p> <p>佐藤 真司 [工学士]</p> <p>①教育工学 ②ネットワーク</p> <p>芝田 全弘 [修士(経営学)]</p> <p>①財務会計 ②会計学原理</p>	<p>准教授 大深 俊明 [修士(社会福祉学)]</p> <p>①社会福祉 ②社会福祉援助技術</p> <p>藤井 宏明 [修士(医療福祉学)]</p> <p>①介護福祉 ②介護技術</p> <p>中嶋 裕子 [修士(学術)]</p> <p>①精神保健福祉 ②理論と相談援助</p> <p>杉本 浩章 [修士(マネジメント)]</p> <p>①社会福祉 ②地域福祉論</p>	<p>講 師 加藤 友野 [臨床福祉学修士]</p> <p>①介護福祉 ②こことからだのしきみ</p> <p>伊藤 泰三 [修士(社会福祉学)]</p> <p>①社会保障 ②社会保障論</p>
<p>助 手 氏原 有記 [修士(スポーツ健康学)]</p> <p>①社会福祉援助技術現場実習指導</p>	<p>助 手 氏原 有記 [修士(スポーツ健康学)]</p> <p>①社会福祉援助技術現場実習指導</p>	<p>福祉健康学部</p> <p>こども学科</p>	<p>客員教授 大成 浄志 [医療博士]</p> <p>①健康医学 ②微生物学・免疫学</p>
<p>講 師 尾崎 誠 [博士(工学)]</p> <p>①マルチメディア ②情報処理論</p> <p>本田 良平 [修士(文学)]</p> <p>①アメリカ文学 ②英会話</p> <p>徐 恩之 [博士(商学)]</p> <p>①商学 ②マーケティング</p> <p>朝日 亮太 [修士(商学)]</p> <p>①商学 ②経営入門</p>	<p>助 教 細川 光浩 [修士(経営情報学)]</p> <p>①情報処理教育 ②データベース</p>	<p>助 手 奥田 由紀恵 [修士(経営情報学)]</p> <p>①情報処理教育 ②表計算</p>	<p>講 師 水井 純子 [博士(学校教育学)]</p> <p>①健康教育 ②保健体育科教育学特講</p>
<p>講 師 望月 悅子 [教育学士]</p> <p>①幼児教育 ②保健内容総論</p> <p>中村 喜久江 [修士(教育学)]</p> <p>①家庭科教育 ②初等家庭</p> <p>林原 慎 [修士(学術)]</p> <p>①国際理解教育 ②初等社会</p> <p>加知 ひろ子 [文学修士]</p> <p>①教育心理学 ②言語発達論</p>	<p>准教授 中原 大介 [修士(社会学)]</p> <p>①対人援助 ②家庭支援論</p> <p>伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>	<p>准教授 中原 大介 [修士(社会学)]</p> <p>①対人援助 ②家庭支援論</p> <p>伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>	<p>講 師 藤井 宣彰 [修士(教育学)]</p> <p>①教育社会学 ②教育原理</p> <p>大西 理恵子 [修士(心理学)]</p> <p>①臨床心理学 ②臨床心理学</p> <p>三藤 恭弘 [修士(教育学)]</p> <p>①国語教育 ②国語表現法</p>
<p>助 手 田中 宏和 [博士(法学)]</p> <p>①法学 ②憲法</p>	<p>講 師 田中 宏和 [博士(法学)]</p> <p>①法学 ②憲法</p>	<p>助 手 伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>	<p>助 手 伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>
<p>福祉健康学部</p> <p>福祉学科</p>	<p>学科長 佐藤 啓一 [学士(経済学)]</p> <p>教 授 ①福祉経営 ②福祉サービスの組織と経営</p> <p>塙井 基夫 [理学博士]</p> <p>①遺伝学 ②バイオテクノロジー</p> <p>小椋 喜一郎 [文学修士]</p> <p>①社会福祉 ②社会福祉論</p>	<p>講 師 田中 宏和 [博士(法学)]</p> <p>①法学 ②憲法</p>	<p>助 手 伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>
<p>学科長 佐藤 啓一 [学士(経済学)]</p> <p>教 授 ①福祉経営 ②福祉サービスの組織と経営</p> <p>塙井 基夫 [理学博士]</p> <p>①遺伝学 ②バイオテクノロジー</p> <p>小椋 喜一郎 [文学修士]</p> <p>①社会福祉 ②社会福祉論</p>	<p>講 師 田中 宏和 [博士(法学)]</p> <p>①法学 ②憲法</p>	<p>助 手 伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>	<p>福祉健康学部</p> <p>看護学科</p>
<p>学科長 佐藤 啓一 [学士(経済学)]</p> <p>教 授 ①福祉経営 ②福祉サービスの組織と経営</p> <p>塙井 基夫 [理学博士]</p> <p>①遺伝学 ②バイオテクノロジー</p> <p>小椋 喜一郎 [文学修士]</p> <p>①社会福祉 ②社会福祉論</p>	<p>講 師 田中 宏和 [博士(法学)]</p> <p>①法学 ②憲法</p>	<p>助 手 伊藤 憲孝 [修士(音楽)]</p> <p>①音楽 ②ピアノⅠ</p>	<p>学部長 森田 なつ子 [修士(経済学)]</p> <p>教 授 ①基礎看護学 ②看護管理学</p> <p>学科長 木宮 高代 [修士(看護学)]</p> <p>教 授 ①老年看護学 ②高齢健康科学・災害看護論</p>
<p>助 手 谷田 恵美子 [博士(社会学)]</p> <p>①在宅看護学 ②在宅看護論</p>	<p>助 手 谷田 恵美子 [博士(社会学)]</p> <p>①在宅看護学 ②在宅看護論</p>	<p>助 手 谷田 恵美子 [博士(社会学)]</p> <p>①在宅看護学 ②在宅看護論</p>	<p>助 手 井上 徹 [博士(医学)]</p> <p>①基礎医学 ②栄養と代謝</p>
<p>助 手 齋藤 智江 [修士(保健科学)]</p> <p>①成人看護学 ②成人看護学概論</p>	<p>助 手 齋藤 智江 [修士(保健科学)]</p> <p>①成人看護学 ②成人看護学概論</p>	<p>助 手 井上 徹 [博士(医学)]</p> <p>①基礎医学 ②栄養と代謝</p>	<p>助 手 井上 徹 [博士(医学)]</p> <p>①基礎医学 ②栄養と代謝</p>
<p>助 手 生藤 仁美 [修士(心理学)]</p> <p>①老年看護学 ②老年看護学実習</p>	<p>助 手 生藤 仁美 [修士(心理学)]</p> <p>①老年看護学 ②老年看護学実習</p>	<p>助 手 木場 しのぶ [修士(心理学)]</p> <p>①成人看護学 ②成人看護学実習</p>	<p>助 手 木場 しのぶ [修士(心理学)]</p> <p>①成人看護学 ②成人看護学実習</p>

## 【4】入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況

### ＜受入方針＞

本学の“建学の精神”には、「大学は、真理を探求し道理を実践する勇気ある若人、生命を尊び他人を敬い自らの郷土・社会・国家を愛し、進んで世界を愛することのできる視野の広い若人を期待し、歓迎する。本学は、未来を志向する無垢な若人に明日の希望を託し、明るい未来の礎を築くため、人材養成を主眼とする。」と記されている。また、“知行合一”を教育理念の一つとして、社会のニーズに沿った理論と応用的技術能力を備えた社会人の養成を主眼としている。そこで、本学の3学部5学科の全ては実社会で即戦力となることを目指すとともに、各種の資格が取得できるように教育課程上の工夫をしている。

また、本学は、時代の変化に対応できる知識と技術に裏付けられた「総合的な問題解決能力」を身につけ、幅広い視野のもとで自分の責任で考え、選択し行動できる人。即ち、これから社会で活躍できる人材を育成します。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待します。

- 自ら学び、自ら考え未来を切り拓く意欲がある人
- 自己実現に向かって目的意識をもって、継続して努力ができる人
- 実社会で即戦力となることを目標にして、積極的に取り組みができる人

### (経営学部・経営学科)

#### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

経営学科では、豊かな人間性にあふれ、考えの異なる人たちとも協調して、時代の要請する企業経営上の、あるいは地域が直面している課題の解決に取り組み、地域の発展に貢献できるビジネスパーソンや産業人等の人材を育成します。そのために、次のような意欲と熱意をもった人を積極的に受け入れます。

1. 高等学校における学習内容を理解し、また、部活動あるいは地域のボランティアなどに積極的に取り組み、大学入学後も目的をもって主体的に学生生活を送ろうという意欲をもっている人。
2. 現代の企業の経営や地域の現状について関心があり、そういう問題をより深く理解するために、自ら進んで勉強し、継続した努力のできる人。
3. 将来、ビジネスパーソンや産業人、あるいは地域で活躍しようとして、経営関係分野の専門知識や技術の習得をめざしている人。

### (福祉健康学部・福祉学科)

#### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

福祉学科では、「共感と共生」を基本とした福祉（ウェルビーイング）の理念を柱に、共感の心・自立の支援・共生を可能にする福祉のプロフェッショナルの養成をめざします。福祉施設等の実習をとおして専門知識と実務能力を備えた人材を育成します。福祉学科では、次のような意欲と熱意をもった人の

入学を期待します。

1. 社会福祉及び関連分野に関心をもち、将来それらの分野において活躍するために専門知識や技術を学ぶ意志をもつ人。
2. 自分と他者の関係を大切にし、コミュニケーション能力や倫理観を高めるための自己学修に意欲のある人。
3. さまざまなボランティア活動や社会貢献活動に積極的・主体的に参加し、実践能力を高めるための行動ができる人。
4. 人の幸せを進んで支援することに生き甲斐を感じることのできる人。

(福祉健康学部・こども学科)

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

こども学科では、乳幼児保育・幼稚園教育・小学校教育のスペシャリストの養成を目標にしています。具体的には、子どもを大切に育て、子どもの可能性を引き出すための基本姿勢を高めるとともに、子どもを取り巻く社会状況の変化に対応できる専門家として保育・教育支援ができる人材を育成します。こども学科では、次のような意欲と熱意をもった人を積極的に受け入れます。

1. 子どもの保育・教育に関心をもち、将来それらの分野において活躍するために専門知識や技術を学ぶ意志をもつ人。
2. よく見て、聞いて、自分で考える力、論理的思考力を高めるために努力する人。
3. 課題や目標に向けて積極的に挑戦し、継続しながら達成できる人。
4. 現代社会、社会状況に関心をもち、時代の変化に対応できる人。
5. 社会的常識をもち、協調的に物事に取り組もうと努力する人。

(福祉健康学部・健康スポーツ科学科)

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

健康スポーツ科学科では、現代社会における健康・スポーツの役割を認識し、身体活動を介した健康やスポーツを体系的に深く理解することにより、調和のある人間形成を図ります。更に「健康」「スポーツ」「教職」の3つを柱に、社会に貢献できる有能な職能人・教員・指導者や研究者の人材を育成します。健康スポーツ科学科では、次のような意欲と熱意をもった人を積極的に受け入れます。

1. 健康スポーツ科学科の特色を理解し、学科の専門分野に強い興味と自ら学ぼうとする意欲が旺盛な人。
2. 社会と人間性のかかわりを健康・スポーツの視点から捉え、健康・スポーツ文化の諸分野において発信していくための能力と感性を身につけようとする人。
3. 自然と人類の共生を真剣に考え、人と共振・共鳴・共同でき、目的を段階的に捉え、成果に向けて達成しようとする人。

(看護学部・看護学科)

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

「人間」・「健康」・「環境」・「看護」の4つのコンセプトを柱に、教育内容の精選と効果的な教育方法

の創出をすすめ、将来の看護実践者・指導者・教育者・研究者としての人材を育成します。看護学科では、次のような意欲と熱意をもった人を積極的に受け入れます。

1. 他者の尊厳と権利を重んじ、人間を尊厳することのできる人
2. 保健・医療・看護・福祉分野に大きな夢と関心をもっている人で、物事に対して積極的に取り組む姿勢をもっている人
3. 相手のことばに耳を傾け、自分の考えを適切に表現し、コミュニケーションがとれる人
4. 社会の一員としての自覚と倫理観をもち、人の役に立ちたいと思っている人
5. 多様な価値観と異なる文化を理解し国際的視野で物事を考えることができる人

## 専攻科

### (助産学専攻科)

#### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

高度な専門知識と実践能力を身につけ、女性の生涯を通じた健康支援ができる助産師を育成する。

1. 家族にとっての大きなライフイベントである妊娠・分娩・育児を安全かつ自然な営みとして支援するための高度な知識と経験に基づいた技術をもった助産師
2. 母性看護の対象である全ての年代の女性の母性を健全に育成する役割を果たすことができる助産師
3. 一人の人間としての豊かな人間性と倫理観に裏付けられた感性を持つ助産師
4. 開業権を有する助産師として、将来地域で活躍するために必要とされる、確かな精神・技術・経験とグローバルな視点をもった助産師

## 大学院

### (経営学研究科 経営情報学専攻（修士課程）)

#### アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

現代の社会・経済・経営環境は、変化が激しくかつ不確実です。こうした中で、グローバル化とともにICT（情報通信技術）が高度な発展をみています。経営学研究科経営情報学専攻は、こうした社会・経済・経営環境に対応する、経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野の、高度で豊かな学識と専門的調査研究能力を身につけた研究者、あるいは専門職業人を養成することを目的に掲げています。この目的を達成するために、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を以下のとおり定め、広く国内外から学生を受け入れます。

1. 経営学、経営情報学に強い関心をもち、本専攻で学ぶために必要な学力を有し、自主的に研究する意欲のある人。
2. 経営学、経営情報学に関する専門知識と実践力を身につけ、研究者または専門職業人、あるいは地域社会の一員として活躍しようとする人。
3. 経営学、経営情報学を学際的に研究し、多角的視点から思考できる専門知識を身につけ、研究者または専門職業人、あるいは地域社会の一員として活躍しようとする人。

## (スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 (修士課程) )

### アドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

本研究科では、個人の健康・体力を科学し、生理メカニズムを追求するカリキュラム構成で、身体活動を中心とした医学的・心理的・生理的メカニズムの研究を行い、専門分野の知識を極めた将来の教育指導者を養成します。

大学院スポーツ健康科学研究では、医学、生理学、心理学、そして教育学など、健康科学や体力科学に関する学術基盤を背景に、子どもから中・高齢者にわたる健康と体力づくり、各種スポーツの競技力向上を念頭にした教育・研究を行っている。将来、健康とスポーツを大きく牽引する研究者、教育者および指導者を養成することを目的とする。この目的を達成するため、下記に示すアドミッション・ポリシーを明示している。

ただ、ここに挙げたアドミッション・ポリシーは、学外に対して明確に周知されているとは云えない。大学院を受験する受験者が現れたとき、指導教員となる教員が受験生と面談する段階で、確認されることが恒例となっている。その背景としては、定員が5名であること、またその受験生が健康スポーツ科学科からの進学者によって構成されてきたこと、さらには受験生獲得を念頭にした入試説明会などを実施していなかったことに起因する。しかし今後は、次年度の受験生募集に際して、大学ホームページにアドミッション・ポリシーを掲載する。

1. 健康とスポーツ、そして教育分野で活躍する具体的な将来ビジョンを有している人。
2. 仮説-検証プロセスに基づき、健康やスポーツ文化・活動を科学的に分析したいと希望する人。
3. これまでにない新しい価値の創造や可能性に挑戦したいという意志を有している人。

## (看護学研究科 看護学専攻 (修士課程) )

### アドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

看護・医療の進歩と共に、専門知識の充足及び看護管理のために研究能力を高めることが、看護の実践現場には求められている。その要求に応えるため、看護管理者としてのマネジメント能力ならびにリーダーシップ能力を併せ持つ人材を育成する。

1. 看護学および保健医療福祉領域における研究に意欲を持つ人。
2. 健康問題を幅広い視野で総合的に捉え、新しい分野の開拓や理論の創出に意欲を持つ人。
3. 看護管理学・看護学教育領域および地域健康看護学領域の研究に自ら積極的に取り組み、社会に貢献する意欲を持つ人。

### ＜在学者数＞

平成27年5月1日現在の福山平成大学の在学者数は、表2.1に示しているとおり1,245人である。

なお、平成25年度からは、学部の収容定員が1,410人から1,360人に変更になった。

### ＜社会人学生数＞

社会人受け入れの為の入試制度は、実施していません。

## ＜就職及び進学の状況＞

### 1) 就職指導体制

本学は開学以来「社会に貢献できる有為な人材」の教育・育成に力を注ぐとともに、学生の就職対策及び指導に全教職員が一丸となって取り組み、毎年100%近い内定率を達成しています。具体的には、次の体制で学生の就職指導に当たっています。

- ①各学科に就職委員を配置するとともに、この委員で構成する『就職委員会』を全学機関として設置しています。そして、この就職委員会で就職指導方針及び指導方法を検討して、全学的な取組みを行っています。
- ②この指導方針に基き、各学科のクラス担任教員が学生個々人の希望・能力・意欲・適性等に応じた指導を行っています。なお、学生個々人の進路希望・適性・就活進捗状況・指導内容等の情報は、学生総合支援システム（ゼルコバ）の『WEB就職支援』へ登録することにより、クラス担任教員と就職課が情報の共有化を図れるようになっています。
- ③『就職課』は就職委員会の委員及び各クラス担任教員と緊密に連携しながら、学生総合支援システム（ゼルコバ）等を介して就職情報の提供を行ったり、学生の就職相談及び助言を行っています。加えて、ジョブサポータ及びキャリアカウンセラーの協力も得て、学生の個別相談に応じる体制を整えています。
- ④就職委員会では、4月頃から翌年の2月頃まで年間を通じて、基本的に毎週金曜日の4時限目に約30コマ程3年生を中心に『就職ガイダンス』を開催しています。この中では、社会に出て働くという意味や動機付けを始め、企業講演会、一般常識・SPI試験の対策、模擬面接、マナー講座等就職に係る各種のガイダンスを行っています。
- ⑤就職活動に於ける注意点等の詳細については、就職ガイダンスの中で3年生を対象に『就職の手引き』を別途配付し説明を行っています。

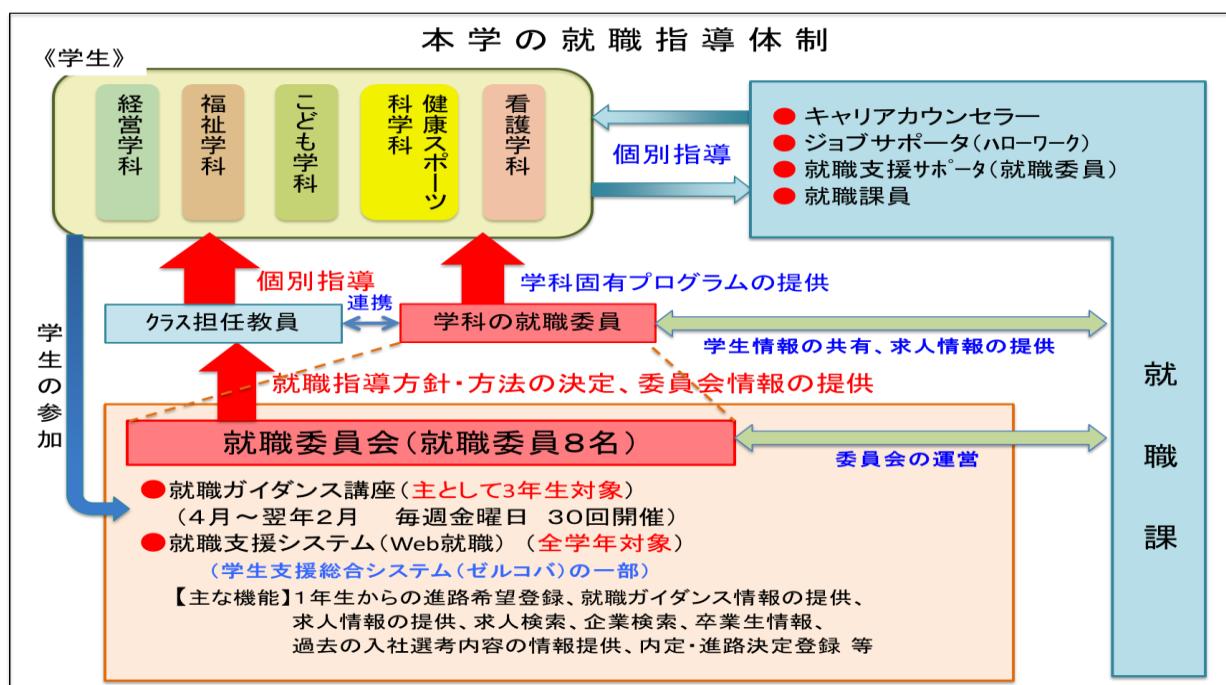


図4.1 就職指導体制

## 2) 平成26年度(第18期生)の就職状況

本学の過去10年間における就職内定率の推移は常に95%を上回っており、本年度も最終内定率を99.3%まで伸ばすことができた。

表4.1 平成27年3月卒業生の就職状況

(平成27年5月1日現在 学校基本調査データ)

(単位:人)

学 科	卒 業 者 数	進 学 等	就 職 希 望 者 数	就 職 決 定 者 数	内 定 率 (%)
経 営	47	6	41	40	97.6
福 祉	36	0	36	36	100.0
こ ど も	55	2	53	52	98.1
健康ス ポーツ科	84	7	77	77	100.0
看 護	89	10	79	79	100.0
合 計	311	25	286	284	99.3

※進学等=大学院・専門学校・専攻科等への進学、病気療養及び家事手伝い等

※内定率=就職決定者÷就職希望者数

※学位授与数=学位は、経営学科「学士(経営学)」、福祉学科「学士(福祉学)」、こども学科「学士(こども学)」、健康スポーツ学科「学士(健康スポーツ科学)」、看護学科「学士(看護学)」を各学科の卒業者数に応じて授与。

## 3) 卒業生の主な就職先(学科別)

### ●経営学科

#### 《一般企業》

(製造) 天野実業(株) ウラベ(株) キングパーティ(株) JFEスチール(株) ツガミ 日東製鋼(株) ビッグボーン商事(株)  
 (運輸) 福山通運(株) 西部運輸(株) (金融) しまなみ信用金庫 両備信用組合 備後信用組合  
 (卸・小売) アシード(株) エブリイ 光和物産(株) ザグザク 株外林 トクショク(株) 名古屋製酪(株) ハローズ  
 ププレひまわり ユーホー  
 (サービス) アクトシステムズ サカイ引越センター 福山臨床センター ファーマシイ 他

#### 《公務員他》

自衛隊 県警察本部 市役所 消防署 (学)広島山陽学園 福山商工会議所 府中商工会議所 他

### ●福祉学科

#### 《公務員他》

広島県警 福山市役所 徳島県社会福祉協議会 広島県府中市社会福祉協議会 安芸郡府中町社会福祉協議会 福山市北東部地域包括支援センター 広島県福祉事業団 他

#### 《病院》

医) 石東病院 医) 福山こころの病院 医) 養和病院 医) 三原病院 医) 広島第一病院 他

#### 《福祉関係施設・事業所》

医社) サンスクエア沼南 医社) ふあみりい 医社) ひがしの会 医社) 駅家リハビリテーション SAKURA 社福) ジョイティピアおおさ、しんいち 社福) 宣山荘 社福) 福山福寿園 社福) 一れつ会 社福) 尾道さつき会 社福) 静和会 社

福) 春海会 (社福) 広谷福祉会 (セイフティー信和) (社福) 若菜 (社福) こぶしの村福祉会 (社福) 創樹会 (福山六方学園) (社福) きのこグループ (社福) あづみの森 (社福) 桜風会 (あいあい他) (社福) 芙蓉の家 (社福) 翁仁会 (ほのぼの苑) 他

#### 《民間福祉企業》

(株) QOL サービス (株) 創心会 (株) ディア・レスト福山 (株) サルートとまと (株) 介護福祉サービスゆうゆう 他

#### 《一般企業》

JR 西日本 JTB 三和システム ユウベル平安閣グループ グリーンピアせとうち イー・ビー・エム 映クラ株式会社 天満電機産業 東京靴 他

### ●こども学科

#### 《保育園・託児所》

福山市立保育所 呉市立保育所 廿日市市立保育所 千田西保育所 大門保育所 童心園保育園 なかよし保育園 ひらの保育園 田尻保育園 大門保育所 みどり保育園 わかば保育園 今治虎岳保育園 寺岡整形外科病院託児所 他

#### 《幼稚園》

尾道市立吉和幼稚園 かなりや幼稚園 松永幼稚園 誠信幼稚園 聖園幼稚園 天使幼稚園 他

#### 《小学校》

福山市立深津小学校 福山市立駅家東小学校 福山市立瀬戸小学校 姫路市立前之庄小学校 他

#### 《福祉施設》

社福) 創樹海 (福山六方学園) (社福) ゼノ少年牧場 (社福) さくら福祉会 児童養護施設 津田子供の家 (社福) 一れつ会他

#### 《一般企業・その他》

島根県警察 (株) くらコーポレーション (株) スピングルカンパニー (株) フアーマシー やしまグループ 他

### ●健康スポーツ科学科

#### 《一般企業》

ALSOK 山陰(株) (株)エービーシー・マート 愛媛銀行 (株)エフピコ (株)オンワード樫山 山陰合同銀行 (株)サンキ (株)ザグザグ しまなみ信用金庫 セコム(株) JFE スチール(株) JFE 環境(株) 新広島ヤクルト販売(株) 玉島信用金庫 (株)玉造 テラル(株) (株)トマト銀行 名古屋製酪(株) (シヤータ) 日本たばこ産業(株) はるやま商事(株) (株)ヒマラヤ (株)プレひまわり (株)御池鐵工所 三原農業協同組合 (株)ムラサキスポーツ (株)八杉商店 両備信用組合 (株)ロイヤルコーポレーション 他

#### 《スポーツクラブ関係》

グンゼスポーツ(株) (株)さんびる 広島市スポーツ協会 福山 YMCA スポーツセンター (株)フジ・スポーツ&フィットネス 府中市 B&G 海洋センター リヨーコーテニスクラブ (株)ルネサンス 他

#### 《公務員・学校》

自衛隊 県警察本部 広島県教員(保健体育) 福山市役所 神石高原町役場 消防局 英数学館小学校 比治山女子中学・高等学校 屋久島おおぞら高等学校 岡山県美作高校 他

## 《病院・福祉施設》

(社福)一れつ会 駅家リハビリテーション SAKURA 大田記念病院 株創心會 介護老人保健施設サンスクエア沼南  
(社福) 緑寿会 (社福) 春海会エクセル鞠の浦 (医社) ひがしの会 飛翔会グループ 他

## ●看護学科

### 《国立大学法人、独立行政法人国立病院機構、主要公的医療機関、医療法人など》

福山市民病院 中国中央病院 福山医療センター 寺岡記念病院 日本鋼管福山病院 脳神経センター大田記念病院  
寺岡整形外科病院 山陽病院 尾道市立市民病院 公立みつぎ総合病院 JA 尾道総合病院 東広島医療センター  
広島大学病院 県立広島病院 広島市立広島市民病院 広島赤十字・原爆病院 マツダ病院 広島通信病院  
岡山大学病院 岡山医療センター 岡山市立総合医療センター 川崎医科大学附属病院 倉敷中央病院  
倉敷成人病センター 島根大学医学部附属病院 鳥取大学医学部附属病院 大阪大学医学部附属病院  
兵庫県立こども病院 神戸市立医療センター中央市民病院 東京大学医学部附属病院 がん研有明病院 他

## 4) 各種の資格（学科別）

本学で取得できる資格は、次のとおりである。これらの資格を取得できるように、各学科で教育課程上の工夫や指導がなされている。

表 4.2 本学で取得できる資格

経営	経営	経営	高等学校教諭一種免許状（商業） 高等学校教諭一種免許状（情報） 文部科学省後援ビジネス能力検定ジョブパス／1～3級 日商簿記検定試験／1～3級 電子会計実務検定試験／中級～初級 リテールマーケティング（販売士）検定試験／1～3級 診療報酬請求事務能力認定試験 秘書技能検定／2～3級 ICT プロフェッショナル検定（P 検）／2～3級 マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS） IT パスポート試験（国家試験） 基本情報技術者試験（国家試験） 応用情報技術者試験（国家試験）
----	----	----	--

福祉健康	福祉	社会福祉コース	社会福祉士（国家試験受験資格） 精神保健福祉士（国家試験受験資格） 保育士資格（国家資格） 高等学校教諭一種免許状（福祉） 社会福祉主事 児童指導員
		介護福祉コース	介護福祉士（国家資格） 精神保健福祉士（国家試験受験資格） 高等学校教諭一種免許状（福祉） 社会福祉主事 児童指導員
		両コース共通	介護職員初任者研修 医療事務 認知症ライフパートナー 福祉住環境コーディネーター
		こども	保育士資格（国家資格） 幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
		健康スポーツ科	中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育） 養護教諭一種免許状 健康運動実践指導者（受験資格） 日本体育協会 競技別指導員、競技別コーチ等（受験資格）
看護	看護		看護師（国家試験受験資格） 保健師（国家試験受験資格） 高等学校教諭一種免許状（看護） 高等学校教諭一種免許状（保健） 中学校教諭一種免許状（保健） 養護教諭一種免許状

## 【5】授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

本学の授業科目及び授業方法・内容については、紙媒体の学生便覧、電子媒体の授業時間割及びシラバスを学生に周知し、履修指導や修学指導を行っている。なお、年間の授業計画は、教務委員会から全学教授会に諮られ、全教員が承認のうえ、実施されている。この年間事業計画を「学年暦」と呼び、全学生に配布する。

表 5.1 平成 27 年度 学年暦 (授業計画)

月	A・B	日	月	火	水	木	金	土	日	曜	行	事
									4	1	入学式	
4	A	5	6	7	8	9	10	11	4 (土)、6 (月)	新入生オリエンテーション		
	B	12	13	14	15	16	17	18	7 (火)～8 (水)	新入生合宿オリエンテーション		
	A	19	20	21	22	23	24	25	7 (火)～9 (木)	前期健康診断		
	B	26	27	28	29	30			8 (水)～9 (木)	在学生オリエンテーション		
									10   金	前期授業開始		
									10 (金)～16 (木)	履修申請期間 (Web入力)		
									21   火	開学記念日		
									22 (水)～24 (金)	履修申請確認期間		
									Web登録更新期間			
									25   土	学長杯争奪競技大会		
5	A	3	4	5	6	7	8	9	1   金	曜日調整日 (水曜日 (A週) の授業)		
	B	10	11	12	13	14	15	16	9   土	曜日調整日 (月曜日 (A週) の授業)		
	A	17	18	19	20	21	22	23	7 (木)～13 (水)	教職カルテ入力期間		
	B	24	25	26	27	28	29	30				
	B	31										
6	B	1	2	3	4	5	6					
	A	7	8	9	10	11	12	13				
	B	14	15	16	17	18	19	20				
	A	21	22	23	24	25	26	27				
	B	28	29	30								
7	B	1	2	3	4	5	6	7	4   土	見学会		
	A	5	6	7	8	9	10	11				
	B	12	13	14	15	16	17	18				
	A	19	20	21	22	23	24	25	26   日	体験入学会		
	B	26	27	28	29	30	31		29   水	前期授業終了		
8	B	1	2	3	4	5	6	7	7/30 (木)～8/5 (水)	前期定期試験		
	A	2	3	4	5	6	7	8				
	B	9	10	11	12	13	14	15	8/6 (木)～			
	A	16	17	18	19	20	21	22	1   土	夏季休業開始		
	B	23	24	25	26	27	28	29	8/23 (日)～9/6 (日)	保証人懇談会 (地方・本学会場)		
9	A	30	31							※本学会場 8/29 (土)～8/30 (日)		
	A	1	2	3	4	5	6	7				
	B	6	7	8	9	10	11	12	15   火	夏季休業終了		
	A	13	14	15	16	17	18	19	24   木	後期授業開始		
	B	20	21	22	23	24	25	26	24 (木)～28 (月)	後期追加履修申請期間		
10	A	27	28	29	30				26   土	曜日調整日 (月曜日 (B週) の授業)		
									1   木	履修申請確認期間		
									4   日	指定校入試		
									17   土	曜日調整日 (月曜日 (A週) の授業)		
11	B	1	2	3	4	5	6	7	23 (金)～26 (月)	御幸祭		
	A	8	9	10	11	12	13	14				
	B	15	16	17	18	19	20	21				
	A	22	23	24	25	26	27	28	24 (火)～27 (金)	後期健康診断 (期間中1日のみ実施)		
	B	29	30						28   土	曜日調整日 (月曜日 (A週) の授業)		
12	B	1	2	3	4	5	6	7				
	A	6	7	8	9	10	11	12	5   土	推薦入試 (B日程)		
	B	13	14	15	16	17	18	19	19   土	曜日調整日 (金曜日 (B週) の授業)		
	A	20	21	22	23	24	25	26	21   月	冬季休業開始、後期集中講義開始		
	B	27	28	29	30	31			28   月	仕事納め		
1	B	1	2	3	4	5	6	7	5   火	仕事始め		
	A	3	4	5	6	7	8	9	7   木	冬季休業終了		
	B	10	11	12	13	14	15	16	8   金	授業開始		
	A	17	18	19	20	21	22	23	9   土	曜日調整日 (月曜日 (A週) の授業)		
	B	24	25	26	27	28	29	30	15   金	センター試験会場設営		
2	A	1	2	3	4	5	6	7	16 (土)～17 (日)	大学入試センター試験		
	B	7	8	9	10	11	12	13	1   木	後期定期試験		
	A	14	15	16	17	18	19	20	20   土	前期入試 (B日程)		
	B	21	22	23	24	25	26	27	17 (木)～29 (月)	学部学科別行事		
	A	28	29									
3	A	1	2	3	4	5	6	7	1   火	春季休業開始		
	B	6	7	8	9	10	11	12	12   土	後期入試		
	A	13	14	15	16	17	18	19				
	B	20	21	22	23	24	25	26	22   火	学位授与式 (卒業式)		
	A	27	28	29	30	31						

※補講は、土曜日に実施する。

### ＜教育課程の編成方針＞

各学部・各学科ともに、本学の“建学の精神”及び“大学の基本理念”に基づき、定められた学部の目的ならびに学科の目的を実現するため、教育課程を体系的に編成し、遵守するなかで、特色ある教育内容や方法を工夫・実践していることが分かる。次頁以降に学科・研究科毎に教育課程の概要を示す。

(経営学科)

		経営分野					
		組織・戦略	マーケティング	会計	医療事務	実務	
1年次			経営入門A/B 簿記ⅠA/B 情報処理論A/B				
			経営学総論A/B				
	経営組織論A/B	マーケティングA/B	簿記ⅡA/B	医療会計	キャリア開発論		
2年次	人的資源論A/B	商業論A/B	簿記ⅢA/B	診療報酬事務論A/B	ビジネス英語A/B		
	現代企業論A/B	交通論A/B	会計学原理A/B				
	経営史A/B		管理会計論A/B				
3年次	経営戦略論A/B	国際ビジネス論A/B	簿記論A/B	診療報酬事務演習Ⅰ/Ⅱ	企業実務A/B		
	中小企業論A/B	消費者行動論A/B	財務諸表論A/B	医学一般A/B	企業実習A/B		
	ベンチャービジネス論A/B	国際交通A/B	原価計算論A/B		企業者論		
			税務会計論A/B		ビジネス中国語A/B		
			経営分析A/B		ビジネス韓国語A/B		
			監査論A/B				
4年次		コンピュータ会計論A/B					

		経営情報分野					
		情報処理	情報システム	プログラミング	文書作成	経営科学	
1年次			経営入門A/B 簿記ⅠA/B 情報処理論A/B				
			コンピュータ入門A/B	Visual Basic	Webデザイン	基礎数学A/B	
			情報倫理	Webプログラミング	Webコンテンツ		
2年次	表計算	情報マネジメント	C言語A/B	カラーコーディネート	統計A/B		
	プレゼンテーション	情報戦略	プログラム設計	文書作成			
	情報と職業A/B						
3年次			ネットワーク		コンピュータデザイン	経営科学	
			マルチメディア			意思決定論	
			データベース				
			情報社会とコンピュータ				
			情報システム				
4年次							

		演習	特殊講義		
1年次	基礎演習A/B			必修科目	選択科目
2年次	経営学演習Ⅰ	経営学特殊講義ⅠA/B			
	チャレンジゼミナールⅠA/B	経営情報学 特殊講義ⅠA/B			
	外書講読A/B				
3年次	経営学演習Ⅱ	経営学特殊講義ⅡA/B			
	チャレンジゼミナールⅡA/B	経営情報学 特殊講義ⅡA/B			
	卒業論文	経営学特殊講義ⅢA/B			
4年次	チャレンジゼミナールⅢA/B	経営情報学 特殊講義ⅢA/B			

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

1. 社会人として必要な豊かな人間性と社会性を育むため、1年次に多様な教養教育科目を学ばせる。さらに、2年次、3年次の専門教育科目にも上記関係科目を組み込み、継続した教育から実践力を身につけさせる。
2. ビジネスパーソンや産業人として活躍するために必要な専門教育科目は多岐にわたる。こうした専門教育科目を、科目間および基礎的科目と応用科目の関連性から、専門領域別に整理して、自らの興味と関心に応じて学習を深めさせる。
3. 現代のビジネスパーソンや産業人は、問題を発見し解決する能力やプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力が求められるようになっている。そこで、そのために役立つ実習科目や演習科目、フィールドワーク、卒業論文等もカリキュラムの重要な柱と位置付け学習させる。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

1. 豊かな人間性を支える多様な教養教育科目と専門教育科目を修得している。
2. ビジネスパーソンや産業人として働くうえで必要な経営関係分野の専門知識を身につけている。
3. 現代社会はICT（情報通信技術）がきわめて大きな影響を及ぼすようになっていることを理解し、企業経営や地域活動に役立つ実践的な経営情報関係知識と技術を修得している。
4. 現代経済はグローバル化が進展し、変化が激しく、不確実性が増している。こうした環境変化に対応し、問題を発見し解決する能力や、他者と協力して課題解決に取り組む協調性やコミュニケーション能力を身につけている。

## (福祉学科)

### 社会福祉コース

	1年生	2年生	3年生	4年生	ディプロマポリシー	
	人間力を高める					
	福祉の価値・態度について学ぶ	知識・技術を習得	専門性を高める	職業人の育成		
人間と社会	社会福祉論 I・II ボランティア活動論 ボランティア活動演習 社会理論と社会システム I・II				① 知識・理解 ② 思考・判断 ③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
の心と体 仕組み	心理学理論と心理的支援 I・II こころとからだのしくみ I 認知症の理解 I	こころとからだのしくみ II 認知症の理解 I	人体の構造と昨日及び疾病 I・II 保健医療サービス 精神保健学 I・II 精神医学 I・II		① 知識・理解 ② 思考・判断 ③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
情報／分野／保育士	精神保健に関する制度とサービス I・II 情報処理論 I A・I B	地域福祉論 I・II 福祉行政財政と福祉計画 福祉サービスの組織と経営 社会保障論 I・II 老人福祉論 I・II 介護概論 障害者福祉論 I・II 児童福祉論 I・II 公的扶助論 I・II 就労支援サービス 権利擁護と成年後見制度 更正保護制度 精神障害者の生活支援システム	保育原理 教育原理 社会的擁護 教職概論 保育の心理学 子どもの保健 保育内容総論 保育内容 I・II・III・IV・V 障害児保育 音楽 I・II 体育 I 図画工作 I 保育実習指導		① 知識・理解 ② 思考・判断 ③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
方法技術	社会福祉援助技術総論 I・II	社会福祉援助技術各論 I・II 社会調査の基礎 精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健の理論と相談の難 I・II・IV 社会福祉援助技術各論 III・IV		② 知識・理解 ③ 思考・判断 ④ 態度 ⑤ 技能	
演習	基礎演習 社会福祉援助技術演習 I・II	社会福祉援助技術演習 III・IV	専門演習 I 社会福祉援助技術演習 V 精神保健福祉援助演習 I・II	専門演習 II カウンセリング I・II	③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
実習		社会福祉援助技術現場実習指導 I・II	社会福祉援助技術現場実習指導 III 社会福祉援助技術現場実習 精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習指導 II・III 精神保健福祉援助実習	③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	

※全科目ではなく、主なもののみを挙げている

### 介護福祉コース

	1年生	2年生	3年生	4年生	ディプロマポリシー	
	人間力を高める					
	福祉の価値・態度について学ぶ	知識・技術を習得	専門性を高める	職業人の育成		
人間と社会	社会福祉論 I・II ボランティア活動論 ボランティア活動演習		社会理論と社会システム I・II		① 知識・理解 ② 思考・判断 ③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
の心と体 仕組み	心理学理論と心理的支援 I・II 認知症の理解 I	認知症の理解 II こころとからだのしくみ I・II	人体の構造と機能及び疾病 I・II 精神医学 I・II 医療的ケア I・II	医療的ケア III	① 知識・理解 ② 思考・判断 ③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
情報／分野	情報処理 I A・I B 老人福祉論 I・II 介護福祉学 I・II	社会保障論 I・II 障害者福祉論 I・II 児童福祉論 I・II リハビリテーション論 リスクマネジメント論 介護過程 I・II・III・IV	地域福祉論 I・II 福祉行政財政と福祉計画 福祉サービスの組織と経営 介護概論 公的扶助論 I・II 就労支援サービス 権利擁護と成年後見制度 更正保護制度 精神障害者の生活支援システム 介護過程 V		② 知識・理解 ③ 思考・判断 ④ 態度 ⑤ 技能	
方法技術	社会福祉援助技術論 余暇生活支援法 I	社会福祉援助技術総論 I・II 余暇生活支援法 II コミュニケーション技術 I・II	社会福祉援助技術各論 I・II 社会調査の基礎	社会福祉援助技術各論 III・IV	③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
演習	基礎演習 介護支援技術 I・II・III・IV	社会福祉援助技術演習 I・II 生活援助技術 I・II・V・VI	専門演習 I 社会福祉援助技術演習 III・IV 生活援助技術 III・IV	専門演習 II 社会福祉援助技術演習 V カウンセリング I・II	③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	
実習	介護実習指導 I・II 介護実習 I	介護実習指導 III 介護実習 II	介護実習指導 IV 介護実習 III 社会福祉援助技術現場実習指導 I・II	社会福祉援助技術現場実習指導 III 社会福祉援助技術現場実習	③ 態度 ④ 技能 ⑤ 関心・意欲	

※全科目ではなく、主なもののみを挙げている

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

### 福祉学科カリキュラムポリシー

社会福祉の根底にある理念や哲学（価値、態度）、社会福祉の政策・制度論（知識）、および援助方法（技能）に関する科目と、人間力（知力、実践力、気力、体力、コミュニケーション力）を高め、社会で活躍しうる職業人を育成することを目的とする科目を配置する。

また、実習・演習科目を重視し、1年次生から4年次生まで系統的に実習できるように科目を配置し、児童・障害者・高齢者、精神保健福祉の諸施設、公的機関、民間福祉団体等で実習することにより、必要な知識、態度、技能を身につける。

### 具体的な到達目標

福祉学科ディプロマポリシーを踏まえ、到達目標を設定する。

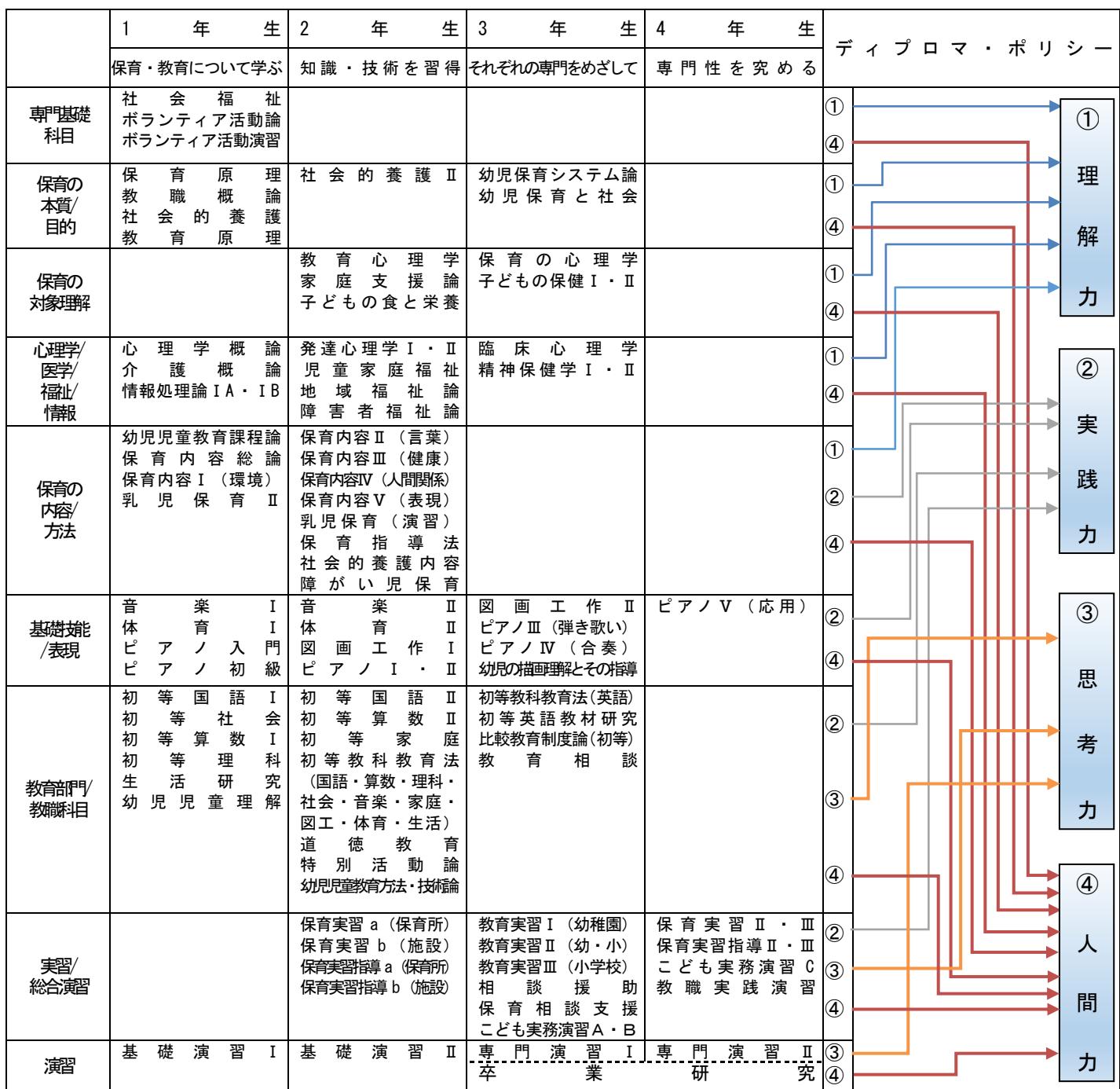
- (1) 社会福祉コースでは、社会福祉士国家試験受験資格を取得するための指定科目が配置されたカリキュラム（教育課程）とする。介護福祉コースでは、介護福祉士国家試験受験資格を取得するための指定科目が配置されたカリキュラムとする。
- (2) 少人数教育を重視し、1年次から4年次までの「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」と一貫したカリキュラムを編成し、基礎から研究までの連続性を重視する。
- (3) 福祉関係国家試験受験資格（社会福祉士、精神福祉士、介護福祉士）を取得する。
- (4) 健康・医療・福祉に関連する外部業界団体認定諸資格取得を支援する。
- (5) 学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うインターンシップを実施する。

## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

### 福祉学科ディプロマポリシー

1. 現代社会の諸問題と社会福祉の基本的な構造や機能、また人間の行動と社会システムに関する知見について理解できるようになる。（知識・理解）
2. 福祉現場で生じているさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）
3. 人権と社会正義の原理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉サービス利用者の置かれている状況を共感できるようになる。（態度）
4. 社会福祉の援助方法を理解し、現代社会に直面する社会問題を解決する援助者（ソーシャルワーカー、ケアワーカー、精神科ソーシャルワーカー）としての専門的技能を身に付ける。（技能）
5. 実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた学習ができる。（関心・意欲）

(こども学科)



カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

こども学科では、乳児から児童まで一貫して支援・教育を行える人材を養成するために必要な科目を開講し、ディプロマ・ポリシーで設定した4つの力を育成するための教育課程を編成している。

また、4年間で段階的に理論や技術を習得し、それぞれの専門性を高めることのできるカリキュラムを設定している。1年次では保育・教育実践の基礎となる知識に関しての理解を深めることに重点を置いている。

2年次では保育・教育にかかわる基礎技能を身につけた上で、段階的に実践へと発展させ、3年次で

は実習や活動に基づいた応用力や専門力を高め、最終的に、4年次では各自の専門分野における保育・教育現場で応用可能な実践力と専門性を身につけることをめざしている。実施にあたっては、段階的に体験する実習教育によって理論と実践の融合をめざし、4年間ピアノ教育によって技術力や表現力を高める支援とともに、少人数ゼミによる基礎演習や専門演習で専門性を究める支援を行っている。なお、こども学科では、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得することができる。

#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

こども学科では、所定の単位を修得し、以下の4つの力を備えた者に対して卒業を認定し、学士（こども学）の学位を授与する。

1. 子どもの発達・心理・環境及び保育・教育に関する理解力。
2. 子どもの生きる力につながる表現領域と可能性を育成する実践力。
3. 様々な課題に対して自分で考えることのできる論理的な思考力。
4. 幅広い社会的常識を身に着け、協調的に取り組むことのできる人間力。

## (健康スポーツ科学科)

	1年生		2年生		3年生		4年生		デュプロマポリシー	
	実践からのスポーツ再発見		実践と理論のスパイラル省察		問題解決への専門的アプローチ		問題・課題解決			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	健康管理概論 身体機能解剖学	スポーツ生理学	スポーツ心理学	スポーツ社会学					①	
演習	基礎演習				専門演習Ⅰ 保健体育教員教育実践演習 保健教育演習	専門演習Ⅰ Sports Medicine Seminar スポーツ施設演習 スポーツ企業情報演習 保健体育教員情報演習	専門演習Ⅱ(卒業研究)	専門演習Ⅱ(卒業研究)	② ③	
健康・スポーツ	アスレティックトレーナー演習 海外事例研究 スポーツ史	体力トレーニング科学 運動・スポーツ指導方法論 スポーツ理論	健康スポーツ栄養学 体力測定評価 急救処置 発育発達老化論 臨床スポーツ医学 アスレティックトレーニング 体力トレーニング科学演習 スポーツ運動学Ⅰ 運動発達論 コーチ学 スポーツ政策論 スポーツプロモーションⅠ	運動処方論 スポーツ化学 アスレティック・リハビリテーション スポーツ運動Ⅱ スポーツ理論演習 メンタルトレーニング方法論 コーチ学Ⅱ スポーツ文化論 スポーツプロモーションⅡ	運動処方演習 健康運動のプログラミング 健康心理学 メンタルトレーニング演習 コーチング科学	健康運動指導演習 救急法技術 コーディネイション科学 スポーツ施設管理運営論	スポーツ指導実践演習		① ② ③	
健康・スポーツ 実践・演習	スポーツ実践演習(陸上競技) スポーツ実践演習(テニス) スポーツ実践演習(バスケットボール) スポーツ実践演習(アーチ・スティック・ドッグ) スポーツ実践演習(野球) スポーツ実践演習(ソフトボール) スポーツ実践演習(トレーニングA)	スポーツ実践演習(陸上競技) スポーツ実践演習(ナカバー) スポーツ実践演習(バレーボール) スポーツ実践演習(リスム・エクササイズ) スポーツ実践演習(ラケットスポーツ) スポーツ実践演習(トレーニングB)	健康運動演習Ⅰ(エアロビックダンス) 指導指導実践演習(遠泳) スポーツ実践演習(水泳) 体育実践演習(武道) 体育実践演習(器械体操) 健康スポーツ実技Ⅰ 生涯スポーツ実技Ⅰ(体育)	健康運動演習Ⅱ(有酸素運動) 健康運動演習Ⅲ(水中運動) 体育実践演習(水泳) 体育実践演習(武道) 体育実践演習(器械体操) 体育実践演習(創作ダンス) 健康スポーツ実技Ⅱ 生涯スポーツ実技Ⅱ(体育)	野外実践演習(アウトドアスポーツ) 野外実践演習(ウインターポーツ)				② ③	
情報関連	情報処理論ⅠA	情報処理論ⅠB	健康スポーツ情報処理演習	健康スポーツ情報処理演習	健康スポーツ情報解析演習	健康スポーツ情報解析演習			① ③	
福祉	社会福祉概論Ⅰ 心理学概論Ⅰ	社会福祉概論Ⅱ 心理学概論Ⅱ	障害者福祉論Ⅰ NPO論 精神保健学Ⅰ	障害者福祉論Ⅱ 介護概論 精神保健学Ⅱ	医学一般Ⅰ	医学一般Ⅱ			① ③	
教員養成・教職科目	保健看護学	保健体育実践Ⅰ(教員入門) 学校保健 保健体育科教育法Ⅰ	微生物・免疫学 保健体育科教育法Ⅱ 学校看護学 看護学実習	保健体育科教育法Ⅲ 養護概論 健康相談活動	保健体育実践Ⅱ 養護実習 健康相談活動	公衆衛生学 養護実習	保健体育科教育法Ⅳ 教職実践演習	教育実習 教育実習	② ③	

### (健康スポーツ科学科のデュプロマ・ポリシー)

- ① 健康・スポーツ科学の専門知識を修得し、健康の必要性や大切さ及びスポーツの魅力や可能性を伝えることができる人材
- ② 視野が広く、目配り・気配りができる人材
- ③ 人と人を結びつけることができる人材

## カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

- 1年次：実践からのスポーツ再発見。(ギャップの確認)
- 2年次：実践と理論のスパイラル省察。(問題や課題を自覚しながら工夫・努力する演習群の配置)
- 3年次：問題・課題解決への専門的アプローチ。(ゼミ色を活かした課題解決への取り組み)
- 4年次：問題・課題解決に向けた取り組み。(卒業論文作成過程を軸にした1つの解決策を提案)

## ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針)

1. 健康・スポーツ科学の専門知識を修得し、健康の必要性や大切さ及びスポーツの魅力や可能性を伝えることができる人材。
2. 視野が広く、目配り・気配りができる人材。
3. 人と人を結びつけることができる人材。

## (看護学科)

学年	1年時次	2年次	3年次	4年次																													
特性	人間についてよく知る	知識・技術を修得	それぞれの専門をめざして課外授業での経験を積む	専門性を究めて将来目標を定める																													
グ性・学年のアドア:卒業の内ウラ卒業の内容トト1生のカニ生の目標	専門的な学習に備え、看護や看護学を基本理論と人・体・心・食に関する知識を身につけます。	1年で身につけた基礎をもとに、看護を必要とする人々の状態に応じた看護方法を学び、対象者との接し方や立場を考えた看護を実践します。	ライフサイクルに応じた対象者の健康レベルを捉えた看護援助を学び、看護実践で知識・技術を身につけます。	看護専門職としての倫理性を高め、看護ケアコーディネート、マネジメントを実践し、看護の発展に寄与する能力を身につけます。																													
人間と健康		人間と健康																															
	<table border="1"> <tr> <td>一般教養</td> <td>専門基礎分野</td> <td>統合分野</td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/>ロスポート科学実践  <input type="checkbox"/>口言語発達論  <input type="checkbox"/>ロボランティア活動論  <input type="checkbox"/>口芸術（音楽A・B）  <input type="checkbox"/>ロコミュニケーション論  <input type="checkbox"/>口哲学         </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■身体のしくみ</li> <li>■薬理作用と与薬</li> <li>■身体の働き</li> <li>■感染と免疫</li> <li>■栄養と代謝</li> <li>■看護と病態</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■公衆衛生看護学概論</li> </ul> </td></tr> <tr> <td></td><td>専門分野</td><td></td></tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/>口心理学  <input type="checkbox"/>口国語表現法  <input type="checkbox"/>■成人看護学概論  <input type="checkbox"/>■高齢健康科学 I  <input type="checkbox"/>■母性と生命科学 I  <input type="checkbox"/>■心のケア         </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学</li> <li>■看護倫理学</li> <li>■看護理論</li> <li>■成人看護学概論</li> <li>■高齢健康科学 I</li> <li>■母性と生命科学 I</li> <li>■心のケア</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■母性と生命科学 II</li> <li>■生活習慣と健康 I</li> <li>■生活習慣と健康 II</li> <li>■高齢健康科学 II</li> <li>■高齢健康科学 III</li> <li>■在宅看護論</li> <li>■子どもの成長と健康</li> </ul> </td><td></td></tr> </table>	一般教養	専門基礎分野	統合分野	<input type="checkbox"/> ロスポート科学実践 <input type="checkbox"/> 口言語発達論 <input type="checkbox"/> ロボランティア活動論 <input type="checkbox"/> 口芸術（音楽A・B） <input type="checkbox"/> ロコミュニケーション論 <input type="checkbox"/> 口哲学	<ul style="list-style-type: none"> <li>■身体のしくみ</li> <li>■薬理作用と与薬</li> <li>■身体の働き</li> <li>■感染と免疫</li> <li>■栄養と代謝</li> <li>■看護と病態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公衆衛生看護学概論</li> </ul>		専門分野		<input type="checkbox"/> 口心理学 <input type="checkbox"/> 口国語表現法 <input type="checkbox"/> ■成人看護学概論 <input type="checkbox"/> ■高齢健康科学 I <input type="checkbox"/> ■母性と生命科学 I <input type="checkbox"/> ■心のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学</li> <li>■看護倫理学</li> <li>■看護理論</li> <li>■成人看護学概論</li> <li>■高齢健康科学 I</li> <li>■母性と生命科学 I</li> <li>■心のケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■母性と生命科学 II</li> <li>■生活習慣と健康 I</li> <li>■生活習慣と健康 II</li> <li>■高齢健康科学 II</li> <li>■高齢健康科学 III</li> <li>■在宅看護論</li> <li>■子どもの成長と健康</li> </ul>																				
一般教養	専門基礎分野	統合分野																															
<input type="checkbox"/> ロスポート科学実践 <input type="checkbox"/> 口言語発達論 <input type="checkbox"/> ロボランティア活動論 <input type="checkbox"/> 口芸術（音楽A・B） <input type="checkbox"/> ロコミュニケーション論 <input type="checkbox"/> 口哲学	<ul style="list-style-type: none"> <li>■身体のしくみ</li> <li>■薬理作用と与薬</li> <li>■身体の働き</li> <li>■感染と免疫</li> <li>■栄養と代謝</li> <li>■看護と病態</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公衆衛生看護学概論</li> </ul>																															
	専門分野																																
<input type="checkbox"/> 口心理学 <input type="checkbox"/> 口国語表現法 <input type="checkbox"/> ■成人看護学概論 <input type="checkbox"/> ■高齢健康科学 I <input type="checkbox"/> ■母性と生命科学 I <input type="checkbox"/> ■心のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学</li> <li>■看護倫理学</li> <li>■看護理論</li> <li>■成人看護学概論</li> <li>■高齢健康科学 I</li> <li>■母性と生命科学 I</li> <li>■心のケア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■母性と生命科学 II</li> <li>■生活習慣と健康 I</li> <li>■生活習慣と健康 II</li> <li>■高齢健康科学 II</li> <li>■高齢健康科学 III</li> <li>■在宅看護論</li> <li>■子どもの成長と健康</li> </ul>																															
生活と環境		生活と環境																															
	<table border="1"> <tr> <td>一般教養</td> <td>専門基礎分野</td> <td>統合分野</td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/>口法学  <input type="checkbox"/>口経済学  <input type="checkbox"/>口経済トピックス  <input type="checkbox"/>ロメディア言語論  <input type="checkbox"/>■情報処理論 I         </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■食生活論</li> <li>■社会福祉・社会保障論</li> <li>■保健医療福祉行政論</li> <li>■環境保健学</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■疫学</li> <li>■保健統計論</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>□国際援助と保健資源</li> <li>□災害看護論</li> </ul> </td></tr> <tr> <td></td><td>専門分野</td><td>一般教養</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■生活援助学</li> <li>■治療援助学</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>□情報処理論 II</li> </ul> </td><td></td></tr> </table>	一般教養	専門基礎分野	統合分野	<input type="checkbox"/> 口法学 <input type="checkbox"/> 口経済学 <input type="checkbox"/> 口経済トピックス <input type="checkbox"/> ロメディア言語論 <input type="checkbox"/> ■情報処理論 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>■食生活論</li> <li>■社会福祉・社会保障論</li> <li>■保健医療福祉行政論</li> <li>■環境保健学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■疫学</li> <li>■保健統計論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□国際援助と保健資源</li> <li>□災害看護論</li> </ul>		専門分野	一般教養			<ul style="list-style-type: none"> <li>■生活援助学</li> <li>■治療援助学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□情報処理論 II</li> </ul>																		
一般教養	専門基礎分野	統合分野																															
<input type="checkbox"/> 口法学 <input type="checkbox"/> 口経済学 <input type="checkbox"/> 口経済トピックス <input type="checkbox"/> ロメディア言語論 <input type="checkbox"/> ■情報処理論 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>■食生活論</li> <li>■社会福祉・社会保障論</li> <li>■保健医療福祉行政論</li> <li>■環境保健学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■疫学</li> <li>■保健統計論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□国際援助と保健資源</li> <li>□災害看護論</li> </ul>																														
	専門分野	一般教養																															
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生活援助学</li> <li>■治療援助学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□情報処理論 II</li> </ul>																															
看護活動		看護活動																															
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>専門基礎分野</td> <td>統合分野</td> </tr> <tr> <td></td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■援助の人間関係論</li> <li>■病態と治療</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>□臨床心理学</li> <li>■学校保健</li> </ul> </td></tr> <tr> <td></td><td>専門分野</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学実習 I</li> <li>■基礎看護学実習 II</li> <li>■リスクマネジメント</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ターミナルケア論</li> <li>■成人看護援助学</li> <li>■老年看護援助学</li> <li>■母性看護援助学</li> <li>■小児看護援助学</li> <li>■在宅看護援助論</li> <li>■看護とカウンセリング</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■成人看護学実習</li> <li>■老年看護学実習</li> <li>■母性看護学実習</li> <li>■小児看護学実習</li> <li>■在宅看護学実習</li> <li>■精神看護学実習</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■総合看護学実習</li> </ul> </td></tr> </table>		専門基礎分野	統合分野		<ul style="list-style-type: none"> <li>■援助の人間関係論</li> <li>■病態と治療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□臨床心理学</li> <li>■学校保健</li> </ul>		専門分野			<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学実習 I</li> <li>■基礎看護学実習 II</li> <li>■リスクマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ターミナルケア論</li> <li>■成人看護援助学</li> <li>■老年看護援助学</li> <li>■母性看護援助学</li> <li>■小児看護援助学</li> <li>■在宅看護援助論</li> <li>■看護とカウンセリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■成人看護学実習</li> <li>■老年看護学実習</li> <li>■母性看護学実習</li> <li>■小児看護学実習</li> <li>■在宅看護学実習</li> <li>■精神看護学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合看護学実習</li> </ul>																		
	専門基礎分野	統合分野																															
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■援助の人間関係論</li> <li>■病態と治療</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□臨床心理学</li> <li>■学校保健</li> </ul>																															
	専門分野																																
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基礎看護学実習 I</li> <li>■基礎看護学実習 II</li> <li>■リスクマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ターミナルケア論</li> <li>■成人看護援助学</li> <li>■老年看護援助学</li> <li>■母性看護援助学</li> <li>■小児看護援助学</li> <li>■在宅看護援助論</li> <li>■看護とカウンセリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■成人看護学実習</li> <li>■老年看護学実習</li> <li>■母性看護学実習</li> <li>■小児看護学実習</li> <li>■在宅看護学実習</li> <li>■精神看護学実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■総合看護学実習</li> </ul>																													
総合		総合																															
	<table border="1"> <tr> <td>一般教養</td> <td></td> <td>統合分野</td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/>口日本国憲法  <input type="checkbox"/>口倫理学  <input type="checkbox"/>■英語         </td><td> <input type="checkbox"/>口中国語  <input type="checkbox"/>口フランス語  <input type="checkbox"/>ロドイツ語         </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>■看護研究（ゼミ I）</li> <li>■看護管理学</li> <li>□看護学教育論</li> <li>□看護研究（ゼミ II）</li> </ul> </td></tr> </table>	一般教養		統合分野	<input type="checkbox"/> 口日本国憲法 <input type="checkbox"/> 口倫理学 <input type="checkbox"/> ■英語	<input type="checkbox"/> 口中国語 <input type="checkbox"/> 口フランス語 <input type="checkbox"/> ロドイツ語	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護研究（ゼミ I）</li> <li>■看護管理学</li> <li>□看護学教育論</li> <li>□看護研究（ゼミ II）</li> </ul>																										
一般教養		統合分野																															
<input type="checkbox"/> 口日本国憲法 <input type="checkbox"/> 口倫理学 <input type="checkbox"/> ■英語	<input type="checkbox"/> 口中国語 <input type="checkbox"/> 口フランス語 <input type="checkbox"/> ロドイツ語	<ul style="list-style-type: none"> <li>■看護研究（ゼミ I）</li> <li>■看護管理学</li> <li>□看護学教育論</li> <li>□看護研究（ゼミ II）</li> </ul>																															
教職課程		<table border="1"> <tr> <td>■道德教育論</td> <td>■教育相談</td> <td>■教育課程論</td> <td>■保健科教育法 IV</td> <td>■教育実習指導</td> <td>■教職実践演習</td> </tr> <tr> <td>■教育心理学</td> <td>■教育方法論</td> <td>■特別活動論</td> <td>■看護科教育法 I</td> <td>■養護実習指導</td> <td>■養護実習</td> </tr> <tr> <td>■教職概論</td> <td></td> <td>■保健科教育法 I</td> <td>■看護科教育法 II</td> <td>■教育実習 I</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■教育原理</td> <td></td> <td>■保健科教育法 II</td> <td>■比較教育制度論</td> <td>■教育実習 II</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■生徒指導</td> <td></td> <td>■保健科教育法 III</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	■道德教育論	■教育相談	■教育課程論	■保健科教育法 IV	■教育実習指導	■教職実践演習	■教育心理学	■教育方法論	■特別活動論	■看護科教育法 I	■養護実習指導	■養護実習	■教職概論		■保健科教育法 I	■看護科教育法 II	■教育実習 I		■教育原理		■保健科教育法 II	■比較教育制度論	■教育実習 II		■生徒指導		■保健科教育法 III				
■道德教育論	■教育相談	■教育課程論	■保健科教育法 IV	■教育実習指導	■教職実践演習																												
■教育心理学	■教育方法論	■特別活動論	■看護科教育法 I	■養護実習指導	■養護実習																												
■教職概論		■保健科教育法 I	■看護科教育法 II	■教育実習 I																													
■教育原理		■保健科教育法 II	■比較教育制度論	■教育実習 II																													
■生徒指導		■保健科教育法 III																															
教育保育課程		<table border="1"> <tr> <td>■公衆衛生看護技術論 I</td> <td>■公衆衛生看護活動論 I</td> <td>■公衆衛生看護技術論 I</td> <td>■公衆衛生看護活動論 I</td> </tr> <tr> <td>■公衆衛生看護技術論 II</td> <td>■公衆衛生看護活動論 II</td> <td>■公衆衛生看護技術論 II</td> <td>■公衆衛生看護活動論 II</td> </tr> <tr> <td>■公衆衛生看護技術論 III</td> <td>■公衆衛生看護活動論 III</td> <td>■公衆衛生看護技術論 III</td> <td>■公衆衛生看護活動論 III</td> </tr> <tr> <td></td> <td>■公衆衛生看護管理論</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	■公衆衛生看護技術論 I	■公衆衛生看護活動論 I	■公衆衛生看護技術論 I	■公衆衛生看護活動論 I	■公衆衛生看護技術論 II	■公衆衛生看護活動論 II	■公衆衛生看護技術論 II	■公衆衛生看護活動論 II	■公衆衛生看護技術論 III	■公衆衛生看護活動論 III	■公衆衛生看護技術論 III	■公衆衛生看護活動論 III		■公衆衛生看護管理論			<ul style="list-style-type: none"> <li>■公衆衛生看護学実習</li> </ul>														
■公衆衛生看護技術論 I	■公衆衛生看護活動論 I	■公衆衛生看護技術論 I	■公衆衛生看護活動論 I																														
■公衆衛生看護技術論 II	■公衆衛生看護活動論 II	■公衆衛生看護技術論 II	■公衆衛生看護活動論 II																														
■公衆衛生看護技術論 III	■公衆衛生看護活動論 III	■公衆衛生看護技術論 III	■公衆衛生看護活動論 III																														
	■公衆衛生看護管理論																																

■必修   □選択

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

- 専門的な学習に備え、看護や看護学を基本理論とし、人・体・食に関する知識を身につける。
- 1年次で身につけた基礎をもとに、看護を必要とする人々の状態に応じた看護方法を学び、対象者との接し方や立場を考えた看護を実践する。
- ライフサイクルに応じた対象者の健康レベルを捉えた看護援助を学び、看護実践で知識・技術を身につける。
- 看護専門職としての倫理性を高め、看護ケアコーディネート、マネジメントを実践し、看護の発展に寄与する能力を身につける。

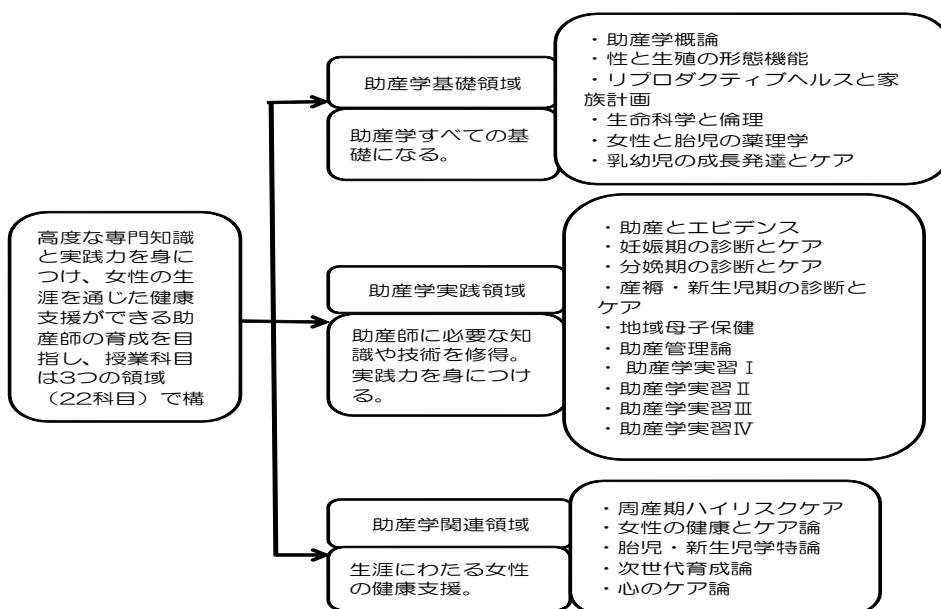
## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

高い倫理観に裏付けされた感性を持ち、人間と環境を愛し、看護学の発展、国民の健康増進及び社会福祉に貢献しうる人材を育成する。この目標に沿って、設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した者に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

### （専攻科）

#### 助産学専攻科

#### ＜助産学専攻科カリキュラムマップ＞



助産学専攻科は、高度な専門知識と実践力を身につけ、女性の生涯を通じた健康支援ができる助産師を育成します。

妊娠・分娩・育児を安全かつ自然な営みとして支援する為、高度な知識と経験に基づいた技術を持つ助産師の育成。全ての年代における女性の母性を健全に育成する役割を果たす助産師の育成。一人の人間としての豊かな人間性と倫理観に裏付けられた感性を持つ助産師の育成。地域で活躍するために必要とされる確かな精神・技術・経験とグローバルな視点を持った助産師を育成します。

### 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成方針)

高度な専門知識と実践力を身につけ、女性の生涯を通じた健康支援ができる助産師を育成するために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

1. 助産学基礎領域では、女性の生涯を通じて、性と生殖に焦点を当てて支援する助産の基礎を学ぶ。
2. 助産学実践領域では、妊娠婦婦および新生児とその家族を支援する助産実践に必要な基本的技術を学ぶとともに、助産学の発展に寄与するための研究方法について学ぶ。さらに、助産学実習を通して最新の周産期医療に触れ、最新の技術を修得し、実践力を高め、保健・医療・福祉関係者との連携・協働、地域母子保健、助産師の役割、助産管理について学ぶ。
3. 助産学関連領域では、生涯にわたる女性の健康支援のための方法やリプロダクティブ・ヘルスについて学ぶ。

### 【ディプロマ・ポリシー】(卒業認定・学位授与方針)

助産学専攻科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を取得した学生は、卒業（修了）が認定される。（助産師国家試験受験資格を与える）

1. 助産の専門知識と実践力を身につけ、助産師としての基礎的能力を身につけた学生
2. 豊かな人間性と倫理的感応力を培い、助産師としての役割、責任を果たす能力と思いやりのある心を持った学生
3. 高度化する周産期医療に対応し、地域社会の母子保健の発展に寄与する能力を身につけた学生
4. 助産師の責務と役割を自覚し、専門職業人として、生涯に亘り自己の資質の向上に努めることができる学生

### (大学院)

#### 経営学研究科【経営情報学専攻（修士課程）】

現代の社会・経済・経営環境は、変化が激しくかつ不確実です。こうした中で、グローバル化とともにICT（情報通信技術）が高度な発展をみています。経営学研究科経営情報学専攻は、こうした社会・経済・経営環境に対応する、経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野の、高度で豊かな学識と専門的調査研究能力を身につけた研究者、あるいは専門職業人を養成します。

### 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成方針)

本経営情報学専攻では、経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野の、専門知識と課題探究・解決能力を体系的に身につけるために、以下を柱として教育課程を編成しています。

1. 経営学分野では経営学・商学・会計学系、経営情報学分野では情報システム・経営科学・プログラミングなど先端情報技術系を中心に、理論的・実践的科目を配置し、きめ細かな研究指導体制により、経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野の体系的な専門知識の習得を目指します。
2. 上記の専門知識の習得のうえにケース・スタディ研究などを活用し、企業など組織体あるいは地

域社会における課題の探究・解決能力を体系的に身につけることを目指します。

3. 以上の成果として、当該分野の専門知識と研究手法に基づいて修士論文の作成を行います。

#### 【ディプロマ・ポリシー】(卒業認定・学位授与方針)

本経営情報学専攻では、修士課程修了までに学生が身につけるべき知識と能力を、修士(経営情報学)の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)として以下のとおり定めます。

経営学、経営情報学に関する高度な専門知識を有し、自ら設定した課題を探求し、それを論理的に分析、解決する能力を備える。そのうえで、次のいずれかの能力を有する。

1. 経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野で、自立した研究者を目指して博士後期課程に進学できる能力。
2. 経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野の専門知識を有する専門職業人として活躍するために必要な能力。
3. 本専攻で修得した経営学、経営情報学および両者を学際的に統合した分野の専門知識を活かし、幅広い視点から地域社会の課題を把握・分析し、方向性を提示できる能力。

#### スポーツ健康科学研究科【スポーツ健康科学専攻(修士課程)】

本研究科では、ヒトの健康・体力に関する科学をベースに、競技力向上にも及ぶ医学、生理学、心理学、教育的メカニズムや反応などを追求する。こどもから高齢者に至までの健康と体力づくり、さらに、有限のスポーツ生命の中でいかにして競技力を向上させることができるかを念頭においた、教育・研究を行い、将来の研究者、教育者および指導者につながる人材を養成する。

また、体育科教育学、養護教育学を通じて、実用性のあるカリキュラム開発を可能とするような保健体育および養護教育の専門的指導者の養成にも取り組む。

#### 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成方針)

健康とスポーツ分野に関する過去と現在の学問的系譜を理解し、次世代に向けての可能性を示唆できる高度専門職業人の育成を目的に、次の方針を示し、教育課程を編成します。

1. 健康とスポーツに関する広範で多様な知識を背景に、応用的・発展的な思考の獲得を目指します。
2. 各講義や演習を通じて、既習知識の活用能力、批判的・論理的思考能力、課題探求・課題解決能力、表現・コミュニケーション能力を備えた健康・スポーツの指導的な人材を育成します。
3. 少人数教育による双方向授業や実験・調査・事例研究などを組み入れ、実践的で生きた柔軟な授業を実施します。

#### 【ディプロマ・ポリシー】(卒業認定・学位授与方針)

本研究科を修了後も、時代とともに健康やスポーツに求められる価値は変化します。本研究科で習得した知識やスキルに固執・安堵することなく、常に時代の流れの先にある文脈を読み解き、さらには新奇な知識を積極的に吸収し、発信できる人材が必要です。よって本研究科の修了者には、下記のような能力の定着を求めています。

1. 現代社会の疾病構造変化に対応した専門職としての健康・運動指導者の養成

## 2. 豊富なスポーツ健康科学に知識を備えた保健体育・養護教諭の養成

## 3. 一般企業における健康・体力づくりに対応するプロモーター養成

### 看護学研究科 [看護学専攻 (修士課程)]

本研究科では、少子超高齢化社会における看護専門職としての社会的責任を果すため、医療の場を含む生活の場で必要とされる人々の QOL 向上を目指し、生活者の視点で広範、多様化する健康社会を支える高いレベルの実践能力と倫理観を備えた看護専門職を育成します。

#### 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成方針)

1. 看護管理学・看護学教育領域：看護専門職として根拠に基づく看護実践を行い、継続した研究と生涯教育を実践すると同時に、医療・教育現場でリーダーシップを発揮し、問題解決能力を有する看護実践者・看護管理者・看護教育者を育成。
2. 地域健康看護学領域：看護専門職として根拠に基づく地域の看護実践を行い、継続した研究と生涯教育を実践すると同時に、地域住民の心身の健康づくりに寄与できるよう、地域健康看護学を身に付けた看護実践者を育成。



#### 【ディプロマ・ポリシー】(卒業認定・学位授与方針)

1. 人間の尊厳とアドボカシーの志向に根差し、看護活動の広範化・多様化に応じて、高いレベルの看護実践能力と倫理観を備えた人材の育成
2. 根拠に基づいた看護を展開でき、研究成果を看護の現場に還元することができる人材を育成
3. 看護専門職の育成に関する諸問題を考察できる研究的な視点を持った優れた看護実践者・看護教育者・看護管理者を育成

## 【6】学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

### ＜成績評価＞

授業形態が講義、演習、実習及び実技の場合は、2/3以上を出席し、試験・レポートの提出等の方法で学期毎に、平成24年度入学生から、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）の5段階で評価している。再試験を行う場合もある。

### ＜進級・卒業要件＞

年次別履修科目の上限及び進級・卒業要件は、各学部・各学科ともに「福山平成大学授業科目履修細則」で規定されており、全学教授会において進級・卒業判定を行なっている。また、1年間に履修できる単位数は、各学年いずれもが、前期と後期を合わせて50単位を超えることはできないし、学期毎（前期・後期）の履修上限は30単位と定められている。

本学の教育課程は、一般教育科目と専門教育科目に大別される。一般教育科目は、4年間で教養基礎科目及び外国語を含めて、24単位である。専門教育科目は、各学部で異なり、100～110単位である。各学年の進級要件を満たさないものは留年とし、在学中2回を超える留年及び同一年次に2回の留年は認められていない。

表 6.1 経営学部 経営学科

年 次	1	2	3	4
年次別必要単位数	32	64	100	134
一般 教 育 科 目	教養基礎科目 (体育科目を含む)	8	12	12
	外国語科目	8	12	12
	小 計	8	16	24
専 門 教 育 科 目	24	48	76	110

表 6.2 福祉健康学部 福祉学科・こども学科・健康スポーツ科学科

年 次	1	2	3	4
年次別必要単位数	30	56	88	124
一般 教 育 科 目	教養基礎科目 (体育科目を含む)	8	12	12
	外国語科目	8	12	12
	小 計	8	16	24
専 門 教 育 科 目	22	40	64	100

表 6.3 看護学部 看護学科

年 次	1	2	3	4
年次別必要単位数	32	70	110	128
一般教 育科 目	教養基礎科目	24		
専 門 教 育 科 目	24	57	96	104

## 【7】校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

### ＜施設設備＞

本学の校地は次図に示すとおり  $80,652,28\text{ m}^2$  であり、校舎の床面積は  $34,106,00\text{ m}^2$  である。

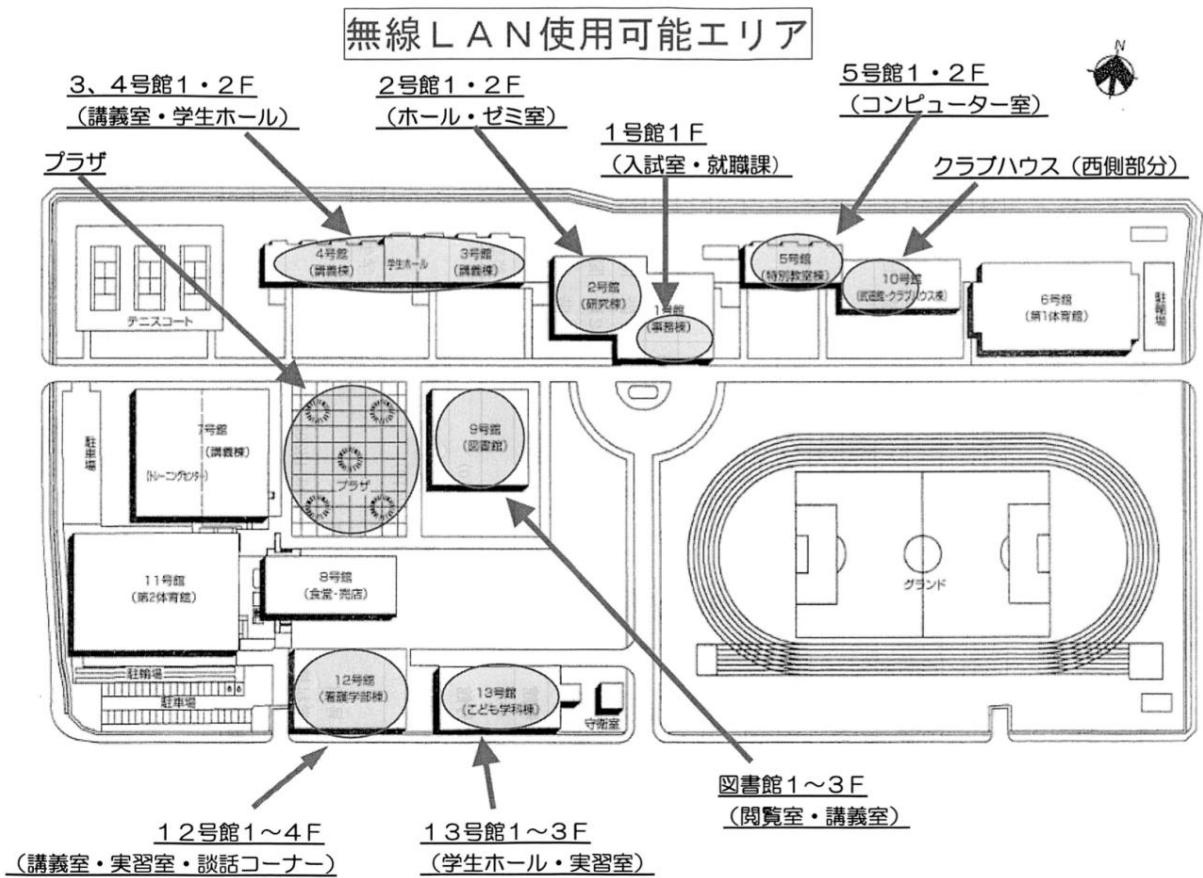


図 7.1 本学のキャンパス全体図

- 1) 運動場は、全天候型のウレタン舗装  $400\text{m}$  トラック 6 レーンとインフィールドに人工芝のサッカー場を備え、トラックの周辺には、棒高跳び、ビーチバレー用の砂場等が整備されている。更に夜間でも使用可能なように、4基の照明を設置している。
- 2) 体育館は第1、第2と二つあり、第1体育館は運動場と武道館・クラブハウス棟（10号館）に、第2体育館はトレーニングルーム等のある7号館にそれぞれ隣接している。特に、第2体育館は、国際大会に公式使用できるバレー用コートが2面取れるようになっており、他にゲーム用バレー用コート3面、バスケットボール用コート2面、ハンドボール用コート1面、フットサル用コート1面、バドミントン用コート8面が兼用コートとして使用可能である。さらに、第2体育館の玄関ホールには、クラ

イミングウォールが設置され、2階には、器械体操（鉄棒、あん馬やつり輪等）、卓球、ボクシングジムの施設も整備されている。また、人工芝の夜間照明付きテニスコート4面、柔道・剣道専用の武道館がある。

- 3) 講義室は、3、4、7号館の講義棟に16室、看護棟に5室、図書館に2室の計23室を設置している。また、実習室は、2号館・看護棟に10室、こども学科棟に15室（ピアノレッスン室を含む。）の計25室を、ゼミ・演習室は、1・2号館と看護棟に12室を整備している。
- 4) 附属図書館は、平成27年5月1日現在で蔵書数=86,070冊、学術雑誌タイトル数=513件を保有し、閲覧座席数=200席である。なお、平成19年6月から、月曜日～金曜日の閉館時間を17時から19時に延長し、本学の学生だけではなく、平成26年度には242人の地域住民に利用させている。また、平成26年度から、学生の自主的な学習やグループ学習を支援するために、ラーニングコモンズ室を3室整備した。
- 5) 本学は、全学生の情報処理能力を向上させるために、情報教育研究センターを設置している。このセンターでは、5号館のコンピュータ室(4室)に、170台のパソコンを設置している。講義に使用されており、学生は講義時間以外に自由に使用することができる。上記コンピュータ室の他に、看護学部棟に58台、図書館閲覧室に検索用パソコン13台が設置されている。また、平成26年度から、全ての講義室内で無線LANの利用が可能となっている。
- 6) 本学では、学内LANが整備され、すべての建物で有線によるインターネット接続が可能となっている。さらに、ノートパソコン、タブレット端末、スマートフォン等のモバイル機器を用いた学生の自主学習や就職活動のために、平成24(2012)年度と平成25(2013)年度に、それぞれ一般系と講義室系の学内無線LANシステムを整備した。



7) 平成 21(2009)年度及び平成 22(2010)年度に、「履修指導システム」、「教職履修カルテシステム」及び「就職支援システム」を、各学生の「学業成績データ」や「進路希望データ」に基づいてきめ細かい履修・就学指導と就職支援を行うことを目的に「学生支援総合システム」を構築した。さらに、看護学部において開発された看護実践能力到達度評価システムを加えて、学生支援総合システムとして平成 23(2011)年度から「ゼルコバ」の愛称で本格運用を開始している。ゼルコバはポータルサイトシステムとなっており、履修支援、就職支援等のシステムだけでなく、掲示板、メッセージ転送、スケジュール管理、ファイル管理等の機能もユーザ（学生及び教職員）は使用できる。

ゼルコバの管理・運用、学生及び教職員の使用は、すべて web ブラウザを使用して web ベースで行われる。学生は、学内無線 LAN システムを使用して、学内からアクセス可能になっている。また、学外からもアクセス可能であるので、履修登録、履修確認、成績確認等、自宅からも使用できる環境を整えている。

平成 27(2015)年度から、web 活用とモバイル機器利用に親和性の高い学修支援システム（LMS: Learning Management System）として「セレッソ」を追加導入した。授業では、スマホやタブレット端末による出席管理、小テスト、レポート提出等に活用され、学生ポートフォリオも作成できる。また、自宅学習にも利用でき、アクティブラーニングの作業環境のひとつにもなっている。

## ＜施設設備の維持・運営＞

- 1) 本学の施設設備の全般的な管理運営は、事務局（管理＝庶務課、運営＝学務課）が担当している。本学の敷地は、校舎、グランド、通路以外は全面芝生が敷き詰められ、桜と櫻並木、クスノキやバラの花壇もよく手入れされている。また、校舎は低層で校舎間の空間も広いので、ゆったりとした快適な環境で、学生が学習やクラブ活動に専念できるようになっている。
- 2) 各講義室・トイレは毎日清掃し、清潔感を保持しており、女子学生から喜ばれている。また、女子学生が半数以上になったので、学園内を明るくするために夜間照明の整備も進めている。
- 3) 建物は建築基準法の規定により、毎年1回、構造、防火等建築設備に関して現状調査を行っており、上水、下水の水質検査や昇降機も法令にのっとり、定期的に点検調査を実施している。また、平成25年度には障害学生のために、8号館にエレベーターの設置などバリアフリー化も進めている。
- 4) グランド、テニスコート、体育館・武道館、トレーニング室等体育施設は、体育施設運営委員会が学務課と連携しながら管理運営に当たっている。それら施設の使用心得は、学生便覧に記載し、周知徹底を図っている。
- 5) 附属図書館については、利用の手引き・心得を学生便覧に記載するとともに、新入生には、毎年4月のオリエンテーション時に利用のための講習会を開催している。
- 6) 情報サービス施設の維持運営には、コンピュータ準備室を設置し、経営学科の助教・助手を常駐させることで、適切な機器の操作や管理を行うとともに、必要に応じて順次新型機器への更新を進めている。

## 【8】授業料、入学料等（初年度分）

### 【学 部】

	経 営 学 部		福 祉 健 康 学 部		看 護 学 部	
	入学時納入	後期納入	入学時納入	後期納入	入学時納入	後期納入
(納入金) 入 学 金	円 330,000	円	円 330,000	円	円 330,000	円
授 業 料	(前期分) 400,000	(後期分) 400,000	(前期分) 430,000	(後期分) 430,000	(前期分) 700,000	(後期分) 700,000
小 計	730,000	400,000	760,000	430,000	1,060,000	700,000
(受託徴収金) 学友会費	5,000		5,000		5,000	
後 援 会	20,000		20,000		20,000	
小 計	25,000		25,000		25,000	
合 計	755,000	400,000	785,000	430,000	1,085,000	700,000

### 【大学院】

	経 営 学 研 究 科		ス ポ ーツ 健 康 科 学 研 究 科		看 護 学 研 究 科	
	入学時納入	後期納入	入学時納入	後期納入	入学時納入	後期納入
(納入金) 入 学 金	円 200,000	円	円 200,000	円	円 200,000	円
授 業 料	(前期分) 320,000	(後期分) 320,000	(前期分) 350,000	(後期分) 350,000	(前期分) 450,000	(後期分) 450,000
小 計	520,000	320,000	550,000	350,000	650,000	450,000
(受託徴収金) 学友会費	5,000		5,000		5,000	
後 援 会	10,000		10,000		10,000	
小 計	15,000		15,000		15,000	
合 計	535,000	320,000	565,000	350,000	665,000	450,000

注 ○授業料は前・後期に分納して納入してもよい。（後期納入期間は8月21日～9月15日）  
○納入した学費は返還しない。

## 【9】大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

### ＜学生の修学・就職・生活指導＞

#### （クラス担任制度及び学生委員会）

本学では、開学以来、学生の入学時から卒業まで、クラス担任教員が修学・生活指導・就職指導に関する相談・助言を行うことになっている。一時的には、この教員が学内の保証的な役割を果たす。

また、全学的な組織としては、学生委員会があり、クラス担任教員や事務局と連携し、キャンパス内に食堂のメニュー化、喫煙エリア、コンビニ方式の売店及び銀行の現金自動支払機の設置など、学生の快適な学園生活の改善に努めている。

### ＜経済的支援＞

#### 1) 福山平成大学奨学生制度

「学校法人福山大学奨学生規程」が定められている。福山大学又は福山平成大学の入学者のうち、学業成績、人物ともに優秀で、将来社会の指導的人物となり得る人材に奨学生を授与して積極的にその育成に資することを目的としている。奨学生には一般奨学生と特別奨学生がある。一般奨学生は、本学に入学後学業成績優秀な20人程度の学生に対して、当該年度授業料のうち30万円を免除している。特別奨学生は、一般入学試験（前期A日程）の合格者のうち成績優秀な者（毎年30人程度）に対して授業料の40/100（看護学部は30/100）を免除するものである。

#### 2) 学校法人福山大学奨学生

本学では、学業成績優秀、品行方正であり、他の学生の模範になると認められる者に奨学生を授与して積極的にその育成に資することを目的とした4種類の独自奨学制度を設けている。

##### ①一般奨学生

本学に入学後、2年次以上の者における前年度の学業成績優秀な者のうち、福山平成大学奨学生選考部会で毎年若干名を選考し、当該年度の授業料のうち、30万円を減免する。

##### ②特別奨学生 A

特別奨学生 A は、推薦入試（A 日程・B 日程）、一般入学試験【前期（A 日程・B 日程）・後期】、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）の合格者で、入学試験の成績が優秀な者のうちから選抜する。一般入試（前期 A 日程）は約 30 名、その他の入試は若干名として選抜する。特別奨学生 A として入学する者について、入学年次の授業料について 100 分の 40 を減免するとともに、正規の修業年限の間、継続して適用する。ただし、2年次以降において、前年度各学科で定められた単位数以上を取得し、かつ、前年度単位取得科目的平均値が 75 点以上の場合に限る。

##### ③特別奨学生 B

特別奨学生 B は、指定校入学試験の合格者のうち、高校に通知する評定平均値を上回る者を選考し、入学金を 15 万円に減免するとともに、入学年次の授業料について看護学部に会っては 100 分の 30 を、その他の各学部にあっては、100 分の 40 を減免し、正規の修業年限の間、継続して適用する。ただし、2年次以降において、前年度各学科で定められた単位数以上を取得し、かつ、前年度単位取得科目的平均値が 75 点以上の場合に限る。

### 3) 日本学生支援機構奨学生

平成 26 年 7 月現在の日本学生支援機構奨学生を貸与された学生数は次のとおりであり、全学生の 59.7% の者が貸与されている。

表 9.1 日本学生支援機構奨学生採用状況

(単位:人)

種別／学年	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
第 1 種奨学生	60	44	40	38	182
第 2 種奨学生	145	146	148	130	569
合計	205	190	188	168	751

### 4) その他の奨学生制度

上記以外に、次の奨学生を受けている者がいる。

文部科学省私費外国人留学生学習奨励給付制度、広島国際センター、熊平文化財団、鹿児島県育英会、松永育英奨学会、山口県ひとつくり財団、あしなが育英会、福山市奨学資金、島根県育英会、岩国市教育委員会 etc.

### (4) アルバイトの紹介

本学では経済的理由などから、止むを得ずアルバイトをしなければならない学生のために、学務課において企業などからアルバイト求人の申込みがあれば、その求人票を学生ホールの掲示板に掲示して紹介している。但し、危険を伴う作業や深夜に及ぶ業務並びに風俗営業等は禁止している。

### (5) 入学金減免制度

同窓生の子弟及び在学生の兄弟姉妹に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施している。同窓生及び在学生とは本学に加え福山大学も含まれている。本学の入学金は 330,000 円であるが、減免後は 200,000 円となる。

## ＜課外活動への支援＞

### (1) クラブ活動助成

学生のクラブ活動には、大学、後援会及び同窓会で支援している。

## ＜健康相談等＞

### (1) 保健管理センター

学生の健康管理のために保健室を設けており、月曜日から金曜日の 11:00～13:00 には看護師免許を持った教員が常駐している。これ以外の時間帯は学務課で対応している。学生には体調が悪くなった時や怪我をした時には、このセンターを利用するのを勧めている。また、悩みのある学生には月・火曜日に学生相談室を開室しており、学外の非常勤カウンセラー 1 名と教員 1 名（ともに臨床心理士資格あ

り）が1日ずつ学生や教職員、保護者の相談に対応している。

定期健康診断は毎年1回5月下旬に実施している。また、3年次生には11月頃に健康診断を実施し、就職活動に必要な健康診断証明書を発行できるようにしている。

## **(2) 学生教育研究災害障害保険**

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために「学生教育研究災害障害保険」に大学及び後援会の負担で全学生を加入させている。また、スポーツ活動中や臨地実習・教育実習中の事故等のため、賠償責任保険に加入することを勧めている。

### **＜学生の意見汲み上げシステム＞**

毎年、学生生活に関するアンケートを1～3年生を対象に行っている。アンケート内容は、「生活での悩み」、「通学状況」、「生活状況」、「アルバイト状況」、「学生の意見・要望」などである。その集計結果を保証人懇談会資料に掲載し、保証人に配付している。特に、「学生の意見・要望」については、できるものから改善している。

授業アンケート、担任制度、保証人懇談会等は学生サービスに対する学生や保証人の意見等を汲み上げるシステムとなっている。

## 【10】沿革

昭和 50 年 1 月 10 日	学校法人福山大学及び福山大学設置認可 理事長、学長に宮地茂就任
平成 4 年 4 月 30 日	学校法人福山大学、福山平成大学設置認可申請
平成 5 年 12 月 21 日	福山平成大学「経営学部経営情報学科（入学定員 130 人、編入学定員 20 人）、同経営法学科（入学定員 100 人、編入学定員 20 人）、同経営福祉学科（入学定員 80 人、編入学定員 20 人）」設置認可
平成 6 年 4 月 1 日	福山平成大学開学 初代学長に久留島陽三就任
平成 6 年 4 月 10 日	第 1 回入学式挙行
平成 6 年 5 月 1 日	学校法人福山大学総長に宮地茂理事長就任
平成 7 年 4 月 1 日	学校法人福山大学理事長に宮地尚就任
平成 8 年 4 月 10 日	第 1 回第 3 年次編入学生入学
平成 10 年 3 月 22 日	第 1 回学位記授与式（卒業式）挙行
平成 11 年 4 月 1 日	二代学長に齊藤尚夫就任
平成 11 年 12 月 22 日	福山平成大学大学院「経営学研究科（修士課程）経営情報学専攻（入学定員 5 人）、同経営法学専攻（入学定員 5 人）」設置認可
平成 12 年 4 月 1 日	福山平成大学大学院経営学研究科、経営情報学専攻、経営法学専攻開設
平成 14 年 3 月 22 日	第 1 回大学院経営学研究科学位記授与式（卒業式）挙行
平成 14 年 3 月 28 日	福山平成大学経営学部経営福祉学科に「保育士を養成する学校その他の施設として指定」認可
平成 14 年 4 月 1 日	三代学長に宮地尚就任
平成 14 年 7 月 1 日	四代学長に大門隆就任
平成 14 年 9 月 4 日	「経営法学科」を「ビジネス法学科」に平成 15 年 4 月 1 日から学科名称変更認可
平成 15 年 7 月 24 日	経営福祉学科を改組し、福祉健康学部福祉学科（入学定員 80 人）、健康スポーツ科学科（入学定員 70 人）届出認可
平成 16 年 4 月 1 日	福祉健康学部福祉学科、健康スポーツ科学科開設

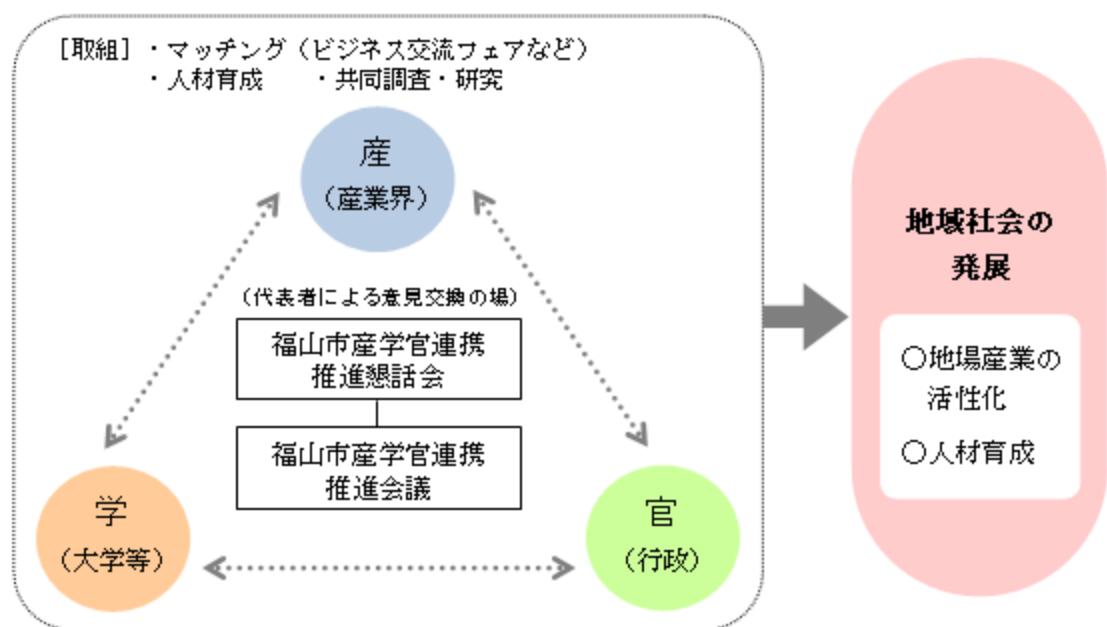
平成 17 年 4 月 1 日	五代学長に田口則良就任 福祉健康学部健康スポーツ科学科入学定員増（70人→100人） 経営学部ビジネス法学生募集停止
平成 18 年 4 月 1 日	福祉健康学部福祉学科社会福祉学専攻（入学定員40人）、幼児保育学専攻（入学定員40人）開設
平成 18 年 11 月 30 日	看護学部看護学科（入学定員80人）設置認可
平成 19 年 4 月 1 日	看護学部看護学科開設
平成 20 年 3 月 24 日	日本高等教育評価機構より第三者評価適合認定
平成 20 年 4 月 1 日	「経営学部経営情報学科」を「経営学部経営学科（入学定員100人）」に名称変更 福祉健康学部こども学科（入学定員50人）を開設、福祉健康学部福祉学科入学定員減（80人→60人）
平成 20 年 10 月 31 日	大学院スポーツ健康科学研究科（修士課程）（入学定員5人）設置認可
平成 20 年 12 月 24 日	大学院看護学研究科（修士課程）（入学定員5人）設置認可
平成 21 年 4 月 1 日	大学院スポーツ健康科学研究科、看護学研究科開設
平成 22 年 4 月 1 日	経営学部経営学科入学定員減（100人→50人）
平成 23 年 4 月 1 日	助産学専攻科（入学定員10人）開設
平成 23 年 6 月 1 日	学校法人福山大学理事長に清水厚實就任
平成 24 年 4 月 1 日	看護学部に新保健師養成課程の認可
平成 27 年 3 月 10 日	日本高等教育評価機構より第三者評価適合認定
	現在に至る

## 【1.1】上記以外の情報(产学官連携、社会貢献活動、大学間連携)

### (产学官連携)

产学官が経済、教育、福祉など幅広い分野で連携し、地場産業の活性化や地域社会に貢献できる人材育成等に取り組むことで、地域社会の発展をめざします。

#### (1) 体制



#### 【構成団体】

産	福山商工会議所、神辺町商工会、沼隈内海商工会、福山北商工会、福山あしな商工会
学	福山大学、福山平成大学、福山市立大学、福山職業能力開発短期大学校
官	福山市経済部、企画政策部

#### (2) 主な取組

##### 「若者の就職観・結婚観などに関するアンケート」を実施しました

福山市産学官連携推進会議における共同研究として、福山市内の学校に在籍する現役の大学生等を対象に、就職観等のアンケート調査を実施し、その集計結果をまとめました。

**【調査目的】**福山市の人口流出を防ぐため、「福山市内の企業に就職したい」、「福山市を離れても戻ってきたい」と思える環境づくりについて、調査・研究を行い、若者の就職観・結婚観の醸成等、人口減少対応施策を打ち出していくための土台づくりに取り組みます。

**【調査対象】**福山市内の学校(福山大学、福山平成大学、福山市立大学、福山職業能力開発短期大学校)に在籍する現役の大学生と大学院生から1,515人を抽出しました。

**【調査結果の活用について】**・産学官で連携してアンケート結果を分析し、「若者の就職・定住に向けた環境づくり」対策の検討・研究を行います。

・福山市内企業へ結果を情報提供することで、雇用の際の参考にしていただき、地元の経済や産業の活性化につなげます。行政は、今後の施策に反映できるよう研究を行います。

(引用資料:福山市産学官連携ポータルサイト)

(社会貢献活動)

## 福山平成大学公開講座

### 目的

福山平成大学は開学以来、教員の研究成果を地域社会に公開し、社会の人々に、生活及び職業上の専門的な知識と一般教養を高める啓発のための学習機会を提供し、生涯学習の振興と文化的、産業・経済的な発展に寄与するよう開催しています。

この度は、テーマ「格差問題を考える」として、人間の幸せとは一体、何なのだろう。かつての一億総中流から、中流層の崩壊による「格差社会」へ。この格差問題の本質は、単なる経済格差にとどまらず、それに伴う様々な分野での格差問題を抱える人たちが大量に増加したことにあると考えます。今年度の公開講座は、本学の教員による「格差問題を考える」について、講師それぞれの立場から格差問題を提起します。「福祉格差」を伊藤泰三講師から、「情報格差」を朝日亮太講師から、「教育格差」を三藤恭弘講師から、「健康格差」を中村雅子講師から、そして「看護格差」を齋藤公彦講師から計画しました。

(内容)

テーマ 「格差問題を考える」

第1講格差問題による社会的排除

9/10（木）伊藤泰三講師（福祉学科）

第2講生活に身近な情報量格差

9/17（木）朝日亮太講師（経営学科）

第3講格差を乗り越えるために教育のできること

9/24（木）三藤恭弘准教授（こども学科）

第4講子どもたちの現代的な健康課題

10/1（木）中村雅子准教授（健康スポーツ科学科）

第5講看護格差と地域社会

10/8（木）齋藤公彦准教授（看護学科）

日時：9月10日（木）～10月8日（木）全5講座18：30～20：00

会場：福山平成大学7号館大講義室 <http://www.heisei-u.ac.jp/info/map.html>

主 催：福山平成大学

後 援：福山市福山市教育委員会福山商工会議所府中商工会議所

尾道市尾道市教育委員会尾道商工会議所

三原市三原市教育委員会三原商工会議所

## 看護学部 地域交流センター事業

H27. 7. 1

看護学部地域交流センターは、地域住民や地域の看護職・医療機関・自治体等に対する講演・研究会の開催等の活動を通じて、地域貢献や保健医療福祉の向上及び本学と地域を結ぶ研究活動の増進のために平成20年10月より設置されたものである。21年度から活動を本格化し、現在も継続し成果を得ている。

概要と期待される効果	教育講座等を通じて、地域交流センターが地域の保健医療福祉を結ぶネットワークの拠点となる。地域、医療施設が抱える健康（看護・保健・助産）の課題について取り組み研究拠点となる。事業の活性化は地域ネットワークの推進に寄与する。今後の看護教育や保健師、助産師の教育にも恩恵が大きいと考えられる。
事業の特色・独創性	常連の人が多くなる傾向がある。全国的に地域交流が求められている傾向がある。さらに内容の濃い看護・保健領域の教員が講座を開くことで、教育・啓蒙が進み、一般住民の健康意識がさらに向上する。また、看護職者の専門性を深めるために貢献が大きい。さらに充実するために、看護学部教員の自己研鑽・努力・工夫が重要である。

## 2015年 平成27年度地域交流センター事業計画

### 1) 地域住民向け講座（毎週第4水曜日 18:00～19:30）

#### 『今年度テーマ：看護専門職が伝える技』

	領域	実施日(水曜)	タイトル	領域(担当者)	内容紹介(簡単に)
1	老年	H27.6.24	自分でできる防災への備えと対処	老年 (木宮) 村岡・生藤	災害時避難所で起こりやすい健康上の問題とその対処方法を紹介する。いざというときのアイデアグッズを作成する。
2	成人	H27.7.15	骨を強くするコツ	成人 (齋藤) 加地、木場	骨密度測定と骨密度をアップする体操など共にしましょう
3	成人	H27.8.5	衰えない身体作りのコツ	成人 (荒井) 平川、鳶	体組成、血管年齢を測定し衰えない身体作りのための目標づくり、生活習慣を伝授いたします。
4	地域	H27.9.12	健康教育	地域(齋藤、笹木)	学生による
5	地域	H27.10.17	健康教育	地域(齋藤、笹木)	学生による
6	在宅	H27.10.28	在宅での髪のお手入れ	在宅(谷田・大元)	ベッド上で行なう洗髪用具の作成・水なしでできる洗髪
7	基礎	H27.11.11	倒れている人を発見! 命を救う心肺蘇生法	基礎(藤井、内田)	人工呼吸と心臓マッサージ、AEDによる急変時の対応、人工呼吸と心臓マッサージはデモストレーション

8	基礎	H28. 1. 20	知っているようでも知らない「血圧」の話	塩崎、伊東	血圧測定のしくみ 血圧に変動をあたえる要因
9	精神	H28. 1. 27	心の健康	精神 (池田、片山)	ストレスチェック・癒し方法・ハンドマッサージなど
10	母性	H. 28. 2. 24	おじいちゃん、おばあちゃんのための孫育て講座	村上博美、曾根清美	・昔の常識、今の非常識 ・お嫁さんに聞いたおじいちゃん、おばあちゃんの嬉しいサプライズ

2) 看護職・保健師向け講座（毎週木 18:30～20:00）  
対象：関連病院等・看護協会会員

➤ 講座（1）「看護研究の基礎講座」（27年度）

月	日（曜日）	時間	タイトル	27年度（担当者）
6月	11日（木）	18:30～20:00	看護研究Ⅰ研究の基礎	若井
6月	25日（木）	18:30～20:00	看護研究Ⅱ量的研究の基礎	若井
7月	9日（木）	18:30～20:00	看護研究Ⅲ質的研究の基礎	荒井

\*講義受講者の中で、その後の研究サポートを希望する者を対象に、講座（2）（3）の担当者割を行い、継続指導していく。

講座（2）看護研究

平成26年度	担当	平成27年3月の状況	27年度担当
		1G 林田 初回文献検索、アンケート調査の方法について話をした。	斎藤公×4回 伊東×4回 塩崎×4回 藤井×4回 池田×4回 大元×4回 *講座（1）開始時意向調査を行い分担予定
(1) 文献査読／文献論文	2G 斎藤公	継続指導	
(2) 研究計画書／倫理審査委員会	3G 塩崎	継続指導	
(3) 実施	4G 伊東	院内で発表し終了、文献検索、活用方法についての指導	
(4) 実施／抄録			

講座（3）看護研究

平成 26 年度	担 当	平成 27 年 3 月の状況	2 年目 (27 年度担当)
(1) 発表／抄録+発表内容	1G 津間	ターミナルケアに関する研究（山陽病院）継続指導	荒 井×4回
(2) 原稿作成	1G 荒井	継続指導	
(3) 原稿作成	2G 伊東	継続指導	
(4) 原稿／投稿	3G. 塩崎	継続指導	

その他 (4) 看護研究・出張研究

福山市民病院	斎藤智・平川	インターナショナルナーシングリサーチ (谷田)
福山地区看護協会	谷田・大元	看護保健科学研究誌（荒井）
日本鋼管病院	伊東・内田・塩崎	キャリアと看護研究（高知県立大学 高橋）
府中市民病院	木宮・村岡	キャリアと人生観（伊東）
国立医療センター	荒井	

平成 27 年度 文部科学省科学研究費  
看護学部 地域交流センター事業活動報告

文部科学省科学研究費取得(研究代表者:若井和子)により、平成 27 年度 地域交流センター事業として「幼児期から親子ではじめる性教育」を福山市内在住の親子を対象に 6 回実施しました。参加人数は、幼児 27 人、保護者 19 人でした。実施内容は以下のとおりです。

1. テーマ

幼児期から親子ではじめる性教育 ～親子で学ぶいのちの大切さ～

2. 目的

このプログラムは、①先入観のない幼児期に親子で性教育を学ぶことで、子どもが恥ずかしがらずに相談できる親子関係をつくること、②いのちの大切さを学び、自分も周囲の人も大切にできる心を育む健康教育を目的とした。

3. 性教育プログラムの日程

A 日程

月日(曜)	対象年齢	時間	テーマ <教材>	場所
第1回 6月14日 (日)	3~4歳	9:30~10:30	はじめましてあかちゃん <エプロンシアター>	福山平成大学 地域交流 センター (12号館1階)
	5~6歳	11:00~12:00	赤ちゃんになって生れる体験 <エプロンシアター・手作り産道>	
第2回 7月5日 (日)	3~4歳	9:30~10:30	生まれてきてくれてありがとう <ペーパーサート>	福山平成大学 地域交流 センター (12号館1階)
	5~6歳	11:00~12:00	大切なからだ <パネルシアター>	
第3回 8月9日 (日)	3~4歳	9:30~10:30	男の子と女の子の違い・大切なからだ <パネルシアター>	福山平成大学 地域交流 センター (12号館1階)
	5~6歳	11:00~12:00	自分も大切、みんなも大切 <からだを動かすゲーム>	

B 日程

月日(曜)	対象年齢	時間	テーマ <教材>	場所
第1回 9月6日 (日)	3~4歳	9:30~10:30	はじめましてあかちゃん <エプロンシアター>	福山平成大学 地域交流 センター (12号館1階)
	5~6歳	11:00~12:00	赤ちゃんになって生れる体験 <エプロンシアター・手作り産道>	
第2回 9月27日 (日)	3~4歳	9:30~10:30	生まれてきてくれてありがとう <ペーパーサート>	福山平成大学 地域交流 センター (12号館1階)
	5~6歳	11:00~12:00	大切なからだ <パネルシアター>	
第3回 10月18日 (日)	3~4歳	9:30~10:30	男の子と女の子の違い・大切なからだ <パネルシアター>	福山平成大学 地域交流 センター (12号館1階)
	5~6歳	11:00~12:00	自分も大切、みんなも大切 <からだを動かすゲーム>	

4. 性教育プログラムの内容

1) 3~4歳児親子性教育プログラム

第1回：はじめましてあかちゃん

エプロンシアターを教材とし、子宮内の胎児の発育、誕生の過程、いのちの誕生を喜ぶストーリー構成とし、登場人物の名前を全 3 回同一とした。

第2回：生まれてきてくれてありがとう

ペーパーサートを教材とし、第 1 回で学習した赤ちゃんの誕生過程を想起させるため、新しいきょうだいの誕生場面を物語に含めた。

第3回：男の子と女の子の違い・大切なからだ

パネルシアターを教材とし、子どもとおとの性別による体の違い、プライベートゾーンについて示し、なぜ性器を大切にしなければならないのか、親は常に子どもに相談して欲しいと思っていることを伝えるストーリーとした。

2) 5~6歳児親子性教育プログラム

第1回：赤ちゃんになって生れる体験

エプロンシアター、お父さん・お母さん人形、胎児・胎盤・臍帯を教材とし、赤ちゃんが誕生するストーリーとした。物語の中で、帝王切開で生まれてくることも伝えた。その後に、手作り子宮・産道に一人ずつ入ってもらい、生まれてくる体験を実施した。

### 第2回：大切なからだ

パネルシアターを教材とし、お父さんとお母さんはお互いが大好きで自分が生れてきたこと、自分の体は自分のもので大切にしなければならないこと、プライベートゾーンの意味を学習するストーリーとした。警視庁防犯標語「いかのおすし」に振り付けを入れて楽しみながら親子で共有した。

### 第3回：自分も大切みんなも大切

お互いに相手を許したり、認めたりする社会生活に必要な基本的な能力を身につけるように、喧嘩のシーンを設定、ゲームを取り入れて、望ましい行動のとり方を学習した。

## 福祉健康学部 こども学科地域交流事業

行事名 こども学科「ライブ・キャンパス」開催

行事内容 こども学科の教育活動の一環として学科紹介の行事を、本学公開講座と同様に、広く地域社会への教養の啓発としての貢献活動を含めて、本学教員によるピアノコンサート『[Field of Music : 芝生と聴く音楽](#)』を開催。

開催日時 平成27年10月16日 金曜日 18:00～19:00

案内 一般社会・高校生等。

(大学連携)

## グローバル人材育成事業(官学連携)

# 講座「国際経営における人材の育成と備後企業の取り組み」

### ■平成 27 年度大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業について

広島県補助事業「平成 27 年度大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業」により、広島県東部 4 大学が連携し、グローバル人材育成をねらいとした、大学生および社会人向け実践的講座を実施します。

本講座で修得した国際経営理論や知識と海外研修との相乗効果によって、真に国際ビジネスで活躍できる人材を育成し、備後地域に供給することが目的です。

**連携大学**：福山大学、尾道市立大学、福山市立大学、福山平成大学

**受講対象者**：学生 | 連携 4 大学に在籍する学生

一般 | 広島県内在住の方、または広島県内の事業所に勤務されている方

**講義日程**：2015 年 10 月 3 日（土）～11 月 28 日（土）毎週土曜日 9 時～12 時 全 15 回

※詳細な日程表は [こちら](#) をご覧ください。

**講義内容**：「国際経営における人材の育成と備後企業の取り組み」というテーマで、経営の国際展開の理論と、

実際に海外に事業展開をしている備後地域企業の実務担当者のケーススタディを予定。

**定員**：大学生 50 名、社会人 20 名 程度

**受講料**：無料

**備考**：講座終了後、希望者のみ東南アジアへの海外研修（12 月中旬頃予定）を行います。

また、海外研修費の約半額補助もあります。

（※学生優先、希望者多数の場合は抽選）

**会場**：学校法人福山大学 宮地茂記念館（JR 福山駅北口正面）

**申込方法**：学生は、所属する各大学の窓口で申し込んでください。

一般の方は、下記オンラインフォームか、

福山大学 経済学部・人間文化学部事務室宛にお電話で申し込んでください。

電話番号： 084-936-2111（内線：2236）

## ■平成 27 年度講義日程

		9:00～10:30 (90 分)		10:40～12:10 (40 分+質疑応答 50 分)
10/3 (土)	第 1 回	【多国籍企業の成立】 ★ <b>兵庫県立大学</b> 大学院経営研究科 教授 梅野 巨利 先生	第 2 回	【ケーススタディ 1】 株式会社広島銀行 国際営業部担当課長 河尻 隆志 氏
10/10 (土)	第 3 回	【中小企業の海外進出】 <b>福山大学</b> 経済学部税務会計学科 教授 中沢 孝夫 先生	第 4 回	【ケーススタディ 2】 株式会社シギヤ精機製作所 営業統括本部次長 小林 浩 氏
10/17 (土)	第 5 回	【国際経営組織】 ★ <b>兵庫県立大学</b> 大学院経営研究科 教授 梅野 巨利 先生	第 6 回	【ケーススタディ 3】 早川ゴム株式会社 海外戦略室担当部長 伊垣 正則 氏
10/24 (土)	第 7 回	【グローバルマーケティング】 <b>神戸大学</b> 大学院経営学研究科 教授 黄 磐 先生	第 8 回	【ケーススタディ 4】 株式会社北川鉄工所 総務部総務課係長 大村 哲也 氏
10/31 (土)	第 9 回	【海外現地経営】 ★ <b>兵庫県立大学</b> 大学院経営研究科 教授 梅野 巨利 先生	第 10 回	【ケーススタディ 5】 リヨービ株式会社 人事・総務部人材開発課長 清水 剛 氏
11/14 (土)	第 11 回	【国際経営戦略】 <b>東京大学</b> 大学院経済学研究科 教授 新宅 純二郎 先生	第 12 回	【ケーススタディ 6】 株式会社堀田組 代表取締役社長 河本 一志 氏
11/21 (土)	第 13 回	【地域企業のグローバル化】 <b>福山大学</b> 経済学部税務会計学科 教授 中沢 孝夫 先生	第 14 回	【ケーススタディ 7】 ホーコス株式会社 専務取締役 唐木 俊夫 氏
11/28 (土)	第 15 回	【ケーススタディ 8】 <b>日東製綱</b> 株式会社【まとめ】 <b>福山大学</b> 経済学部国際経済学科 教授 尾田 温俊 先生		

★ 梅野教授の講義 (10/3, 10/17, 10/31) では、グループディスカッションを実施します。

## ■平成 26 年度講義内容

■各講師の名前をクリックすると、講義の詳細をご覧いただけます。

		9:00～10:30 (90 分)		10:40～12:10 (40 分+質疑応答 50 分)
10/4 (土)	第 1 回	【多国籍企業の成立】 ★ 兵庫県立大学大学院経営研究科 教授 梅野 巨利 先生	第 2 回	【ケーススタディ 1】 株式会社広島銀行 国際営業室担当課長 末次 功 氏
10/11 (土)	第 3 回	【国際経営戦略】 東京大学大学院経済学研究科 教授 新宅 純二郎 先生	第 4 回	【ケーススタディ 2】 株式会社シギヤ精機製作所 営業部次長 小林 浩 氏
10/18 (土)	第 5 回	【グローバルマーケティング】 神戸大学大学院経営学研究科 教授 黄 磷 先生	第 6 回	【ケーススタディ 3】 早川ゴム株式会社 技術部部長 伊垣 正則 氏
10/25 (土)	第 7 回	【国際経営組織】 ★ 兵庫県立大学大学院経営研究科 教授 梅野 巨利 先生	第 8 回	【ケーススタディ 4】 株式会社北川鉄工所 工機事業部生産技術課係長 桑田 文晴 氏
11/1 (土)	第 9 回	【中小企業の海外進出】 福山大学経済学部税務会計学科 教授 中沢 孝夫 先生	第 10 回	【ケーススタディ 5】 リヨービ株式会社 人事部長 中村 憲文 氏
11/15 (土)	第 11 回	【海外現地経営】 ★ 兵庫県立大学大学院経営研究科 教授 梅野 巨利 先生	第 12 回	【ケーススタディ 6】 ホーコス株式会社 専務取締役 唐木 俊夫 氏
11/22 (土)	第 13 回	【地域企業のグローバル化】 福山大学経済学部税務会計学科 教授 中沢 孝夫 先生	第 14 回	【ケーススタディ 7】 日東製綱株式会社 取締役・製造本部長 小林 重久 氏
11/29 (土)	第 15 回	【ケーススタディ 8】 株式会社堀田組 代表取締役社長 河本 一志 氏 【まとめ】 福山大学経済学部国際経済学科 教授 尾田 温俊 先生	★ 10/4,10/25,11/15 の梅野教授の講義では スマーリングループディスカッション (SGD) を実施	

## ●ベトナム海外研修 2014

### ■海外研修（ベトナム・ホーチミン）へ行つてきました

2014年12月13日から18日の6日間、経営学部の学生6名が、広島県東部4大学連携特別講座「国際経営における人材の育成と備後企業の取り組み」に伴う海外研修に参加しました。（福山大学、尾道市立大学、福山市立大学と福山平成大学の4大学合わせて学生計26名が参加）

### 平成26年度 広島県ものづくりグローバル人材育成事業

「国際経営における人材の育成と備後企業の取り組み」

期間中、AGS、JETRO、JICAの方々からベトナムの現状などについて説明をいただき、また（株）サンエス、佐藤産業（株）、ムト一精工（株）のベトナム工場を見学させていただきました。海外進出の最前线に立たれている方、進出企業に勤務しているベトナムの方のお話を直接聞くことで、学生は発展途上国の雰囲気や経済のグローバル化を肌で感じ、日本企業の海外進出の現状を学び、そして国際的に活躍できる人材になるために必要なことはなにかを考えてくれました。



佐藤産業（株）・ベトナム工場



学生による報告会

また、初めて海外に行く学生も多く、パスポートの取得から空港での入国・出国手続き、外貨でのショッピング（値下げ交渉など）、経済・文化の違いなど身を持って体験し、多くのことを学びました。イオンや市場などの活気のある場所でも、現地の人と「物を買う」を通じて交流をしました。市場での値下げ交渉など、大胆な経験もできたと思われます。同じ地域の他大学の学生との交流もあり、新たな友人もできた学生もありました。いろんな意味で、とても良い研修になりました。



イオン・ベトナム 2号店



市場の様子

V2701008